

四 產褥期生殖器出血 Die Genitalblutungen im Wochenbett.

分娩直後ヨリ產褥經過中ニ起ル出血ニ就キテハ上來既ニ反覆詳論セシ處ナリト雖モ、元來出血ハ其意義頗ル重大ナルモノニシテ產科ノ事ニ從フ者須臾モ念頭ヲ去ラシムル能ハザルモノニ屬ス、故ニ今茲ニ更ニ之ヲ綜合シテ記憶ヲ新ニセントス、而シテ出血ハ之ヲ内外二者ニ分ツテ便トス。

A. 外出血 Die äusseren Blutungen.

一、外陰部出血 Blutungen aus d. Vulva. 外陰部竝ニ會陰裂傷ヨリシ其量常ニ僅少ナリ。

二、腔出血 Blutungen aus d. Scheide. 腔裂傷、靜脈瘤破裂、稀ニ潰瘍ヨリ來ル。

三、子宮出血 Uterushutungen. 最モ屢々見ル所ニシテ且ツ最モ重要ナリ、而シテ其由テ來ル所以一ニシテ止マラズ、其主ナルモノ次ノ如シ。

(a) 子宮創傷 Uteruswunde. 前置胎盤ニ於テ見ル子宮口縁創傷、子宮破裂、頸管裂傷、胎盤附著部ノ血管破裂等。

(b) 子宮弛緩症 Atonia uteri. 最モ危險ナル繼發症ナリ。

(c) 卵膜若クハ胎盤殘留 Retention d. Eihäute u. d. Placenta. 產褥子宮出血ノ大原因ヲナスモノニシテ一ハ此等異物ノ存在ニヨリテ子宮收縮ヲ妨グルト、一ハ異物漸次腐敗シ既ニ形成セル胎盤部血塞ヲ破潰スルニ由ルモノナリ、殊ニ屢々流産後ニ於テハ脱落膜ノ殘留ニヨリテ出血ヲ來スコトアリ。

(d) 復舊不全症、竝ニ位置及形狀ノ異常、Subinvolutio et Deviatio uteri. 殊ニ後屈症ニ在リテハ靜脈叢ヲ壓迫シ其還流ヲ妨グルニ由ルモノトス。

(e) 子宮腔及子宮口ノ疾患 Krankheiten d. Uterihöhle u. d. Muttermundes. 產褥性子宮内膜炎、筋腫、癌腫、惡性脈絡膜上皮腫等。

(f) 過早竝ニ過劇腹壓 Zu frühzeitiges oder zu starkes Bauchpresse. 便通時怒責、早期勞動等はレナリ、之ニヨリテ子宮ノ轉位ヲ來シ、同時ニ下腹ノ靜脈性鬱血ヲ起スヲ以テナリ。(g) 膀胱竝ニ直腸ノ過度充盈 Starke Füllung d. Blase und d. Rectum. 子宮ヲ上側方ニ押壓シ其收縮及ビ血行ヲ妨害スルニヨル、殊ニ產褥第一日ニ於テ後出血ヲ來スコト多シトス。

(h) 上記ノ諸原因ナク惡寒戰慄ニ伴フテ子宮出血ヲ來スコトアリ、是レ恐クハ胎盤附著部充血ヲ起スニ由ルナルベシ。

(i) 劇烈ナル精神感動。
症候。出血少量ナルトキハ特殊ノ症候ヲ呈スルコトナシト雖モ、其量増加スルト共ニ種々ノ貧血症狀ヲ發シ、殊ニ強度ノ頭痛ハ貧血性梅毒ニ於テ殆ンド必發ノモノナリトス、其他皮膚蒼白トナリ、顔面四肢厥冷シ、惡心嘔吐、耳鳴、眼閃眩暈、流汗、胸内苦悶等ヲ來シ、甚シキハ終ニ卒倒或ハ搐搦ヲ發ス、卵膜若クハ胎盤ノ殘留ニ因スル出血ハ多クハ八一―一四日後ニ於テ初テ至リ、陣痛様疼痛、下腹部又ハ薦骨部ニ疼痛アリ、且ツ屢々尿意頻數ヲ伴フ、體温

ハ子宮内異物ノ分解ヲ來サザル限リハ一般ニ昇騰セザルモ脈搏ハ常ニ頻速ナリ。豫後 出血ノ原因部位竝ニ其量ニ關ス、子宮内異物ノ残留ニ因スルモノハ出血量大ナルノミナラズ、又病毒感染ヲ容易ナラシムルモノナルヲ以テ豫後不良ナリ、其他子宮弛緩症ハ危険大ナリトス。

療法。主トシテ原因療法ヲ取ルベク、出血部位ヲ直視シ得ルトキハ結紮又ハ壓迫法ニヨリテ止血スベク、實質性出血ニ對シテハ一半格魯兒鐵液ニ蘸セルたんぼんヲ以テ一五—三〇分間壓迫スルヲ可トス、其他安靜ニ就カシメ、灌腸排尿ヲ行ヒ、子宮變位ヲ矯正シ、残留異物ヲ除去スベク、尙ホ子宮弛緩症療法ニ關シテハ分娩病理篇ヲ參照スベシ。

後療法トシテハ勉メテ身心ノ安寧ヲ計リ、殊ニ早期起坐ヲ警ムベシ、貧血甚シカラザルモノニ在リテハ、止血後一〇乃至一二時間ヲ經バ授乳セシムルモ妨グナシト雖モ、貧血高度ナルトキハ一兩日後患婦元氣ノ稍恢復スルヲ待チテ之ヲ爲サシムベシ、授乳ハ固ト子宮收縮ヲ促スモノナルヲ以テ殊ニ意義アリトス。

B 内出血 Die inneren Blutungen.

一、腔及外陰部血腫 Haematoma vaginae et vulvae.

既ニ分娩病理篇ニ於テ詳論セリ(四一〇頁參照)

二、子宮血腫 Haematoma uteri.

分娩後子宮口ノ縮小充分ナルニ反シ子宮體弛緩シ爲メニ血液子宮腔内ニ滯溜スルニヨ

リテ起ルモノニシテ血液ハ多クハ凝固シテ胎盤剝離面ニ附着シ、愈々増大シテ子宮ヲ擴張シ從テ出血益々多キヲ加フルニ至ル、或ハ外來ノ刺戟ニヨリテ子宮收縮ヲ來ストキハ血塊自ラ排出スベク、稀ニ息肉狀ヲナシテ胎盤部ニ附着シウィルヒョウ氏ノ所謂、遊離性息肉狀子宮血腫 Haematoma polyposum uteri. ヲ成スニ至ルモノアリ、其他子宮壁若クハ子宮口唇實質間ニ出血ヲ來スコトアルモ極メテ稀有ナリトス。

症狀。主要ナル症候ハ劇痛ヲ有スル後陣痛及貧血ナリトス、子宮過大ニシテ其壁弛緩シ、之ヲ壓スレバ往々血液若クハ凝血ノ逸出ヲ見ル出血持續シテ子宮益々増大スルトキハ近隣臟器ニ對スル壓迫症狀ヲ誘起スベシ、其他息肉狀ヲナシテ懸垂スルモノハ脆弱ニシテ容易ニ破碎シ得ルニヨリテ眞性息肉ト鑑別スルヲ得ベク、顯微鏡的検査ニヨルトキハ更ニ最モ確實ナルヲ得ベシ。

豫後。一般ニ佳良ナリ然レドモ息肉狀血腫ニ在リテハ往々劇甚ナル出血ヲ來シ生命ヲ脅スコトアリ。

療法。子宮口ヲ擴張シ、麥粒鉗子ヲ以テ異物ヲ除去シ、或ハ時ニ銳匙ヲ使用セザルベカラザルコトアリ、術後二—三%石炭酸水ヲ以テ子宮腔ヲ洗滌シ、麥角ヲ内服セシムベシ、其他實質間血腫ハ外陰部及腔血腫ト同様ニ治療シ、若シ止血シ得ザレバ子宮壁ノ一部ヲ截除シ、腔内ヲ淨洗シ、次テ創縁ヲ縫合シ、沃度仿謨瓦設ヲ挿入シテ壓抵スベシ。

五 産褥性子宮萎縮 Atrophia uteri puerperalis.

產褥子宮ハ時トシテ過度復舊 Hyperinvolution ヲ營ミ、遂ニ萎縮ニ陥ルコトアリ、之ヲ原發性ト續發性トニ分ツ。

一 原發性子宮萎縮 Primäre Atrophie des Uterus.

其萎縮程度ナルヲ常トシ卵巢全ク健全ナルカ、或ハ侵襲セララル、コト少キモノナルヲ以テ爾後ノ月經閉止ヲ見ルコトナク、唯不正ニシテ且ツ其量著シク減少シ、時ニ休歇スルコトアルモノナリ、此ノ如キハ受胎機能克ク保留スルコトアリ、且ツ概シテ自然ニ治癒スルモノトス。

又授乳長キニ過グルトキハ、同ジク子宮ノ過度復舊ヲ誘起スルコトアリ、之ヲ授乳性子宮萎縮 Laktationsatrophie des Uterus. トイフ、授乳ヲ中止シ榮養増進ヲ計ルトキハ、克ク恢復シ得ルモノナリ。

二 續發性子宮萎縮 Secundäre Atrophie des Uterus. 原發性卵巢萎縮ニ續發スルモノヲイフ、而シテ此ノ如キ卵巢萎縮ハ健康婦人ノ平穩ナル產褥ニ來ルコトアリ、或ハ產褥性子宮周圍炎或ハ骨盤腹膜炎等ニ因スル滲出物若クハ炎症著ニヨリテ卵巢ノ榮養障礙セララル、ニ由ルコトアリ、此種ニ屬スルモノニ在リテハ月經全ク休止シ、子宮ハ殊ニ其體部ニ於テ細小貧弱トナリ、内腔僅ニ五乃至六仙迷ヲ算シ、卵巢モ亦固ヨリ萎縮ス。

第二 產褥期ニ發スル泌尿器疾患

Die Erkrankungen der Harnorgane im Wochenbett.

一 排尿ノ機械的障礙 Die mechanische Störung der Harnentleerung.

一 尿閉症 Harnverhaltung.

產褥初期ニ於テ屢々尿閉ヲ見ルコトアルハ、既ニ產褥生理篇ニ論ズル所ノ如シ(上卷四〇〇頁參照)稀ニ第一週以後ニ於テ發來スルコトアリ、即チ或ハ尿道口及腔ノ炎症腫脹ニ因ルモノアリ、或ハ膀胱炎子宮後屈症若クハ腹膜炎ニ併發スルコトアリ。

二 尿淋瀝症 Incontinentia urinae, unwillkürliche Harnentleerung.

產褥ニ於ケル尿淋瀝ハ膀胱頸部ノ萎弱ニ由ルカ、否ラズンバ尿瘻ニ因スルモノナリ、前者ニアリテハ決シテ絶ヘズ漏出スルモノニアラズ、怒責咳嗽等ニ際シ僅ニ漏泄スルニ過ギズ、而モ多クハ自然ニ治ニ就クモノナリ、然レドモ兩三回かてーてるヲ挿入シテ膀胱頸ヲ刺戟スルトキハ、克ク其弛緩セルヲ恢復セシメ得ルコトアリトス。

三 尿瘻 Fistula urinae, Harnstiel.

分娩手術ニ當リ鉤、穿顱器、鉗子、葉、稀ニ胎兒骨片等ニ由リ產道竝ニ膀胱、尿道ヲ損傷スルニヨリテ起ルコトアレドモ、多クハ分娩第二期遷延スルモノ殊ニ狹窄骨盤及ビ後顱頂定位等ニ於テ膀胱腔時トシテ子宮頸部甚シク壓迫セララル、ニヨルモノナリトス。

分娩ニヨリテ來ル尿瘻中最モ多キハ膀胱腔瘻、Fistula vesicovaginalis, Blasenscheidenstiel ナリトス、而シテ其大ナルモノニ在リテハ、分娩後直チニ尿洩ヲ來スベシト雖モ、否ラザルモノハ多クハ產褥第一日ニ於テ已ニ頑固ナル尿閉若クハ膀胱炎ノ徵ヲ呈シ、第一週ノ終リニ

至リ膀胱及生殖器管壁ノ壓迫性壞疽組織脱落スルニ及ビ甫テ尿失禁ヲ來スモノナリ。既ニ尿瘻ヲ生ズルトキハ陰門ヨリ尿ノ漏出スルニ見テ診斷シ得ベシ、其位置及ビ大小ヲ確診センニハ宜シク產褥末期ニ至ルヲ待テテ之ヲナスベク、濫リニ操作ヲ加フベカラズ、而シテ尿瘻小ナルトキハ時トシテ肉芽形成ニヨリテ自然ニ閉鎖スルコトアリト雖モ、其大ナルモノニアリテハ產褥ノ經過ヲ待テテ手術的ニ之ヲ治療セザルベカラズ。

二 膀胱炎 Cystitis, Blasenkatarrh.

原因。產褥期中ニ發スル膀胱炎ハ多クハ消毒不完全ナル若クハ惡露ニヨリテ汚染セラレタルかてーテ使用スルニヨルモノニシテ、稀ニ尿道内ニ存スル病菌ノ蔓延ニヨルコト或ハ周圍組織ニ於ケル炎症ノ波及シ來ルニヨルコトアリ、而シテ主要ノ病原菌ハ葡萄狀球菌ニシテ連鎖狀球菌及ビ大腸菌ニヨルモノハ稍々稀ナリトス然レドモ產褥創傷若クハかてーテ挿入等ニヨリテ膀胱粘膜ノ損傷スルコトナクンバ、偶々病菌ノ侵入シ來ルコトアルモ容易ニ感染スルモノニアラザルナリ。
症狀。傳染後數日ニシテ尿意頻數、殘尿ノ感、耻骨縫際上部ノ疼痛、時トシテ排尿時穿刺性疼痛ヲ來スコトアリ、尿ハ初メ絮狀混濁ヲ呈シ粘液ヲ混ジ、日ヲ經ルニ從ヒ多量ノ膿樣沈澱ヲ排泄スルニ至ル、時トシテ中等度ノ發熱ヲ伴フコトアリ。
豫後。適當ナル療法ニ待ツトキハ多クハ治愈スト雖モ稀ニ腎盂炎或ハ膀胱粘膜ノ壞疽ヲ來スコトアリ。

療法。初期ニ在リテハ安靜ニ就寢セシメ、身體ヲ温保シ、刺戟性ナキ食餌ヲ給シ、膀胱部ニ温罨法ヲ施シ、牛乳、炭酸水、麥湯等ヲ多量ニ攝取セシメ以テ尿ヲ稀薄ナラシムベシ、而シテ裏急後重甚シキトキハ阿片劑ヲ内服若シクハ坐藥トシテ使用スベシ、輕症ニ在リテハウロトロビン、ヘルミトール(一日量三〇)ヲ内服セシムニヨリテ能ク奏效スベシ、然レドモ尿分解甚シク安母尼亞性臭氣ヲ放ツトキハ撒里矢爾酸曹達若クハザロール(一日量二—四、〇)ヲ與フルヲ可トス。

發病後既ニ一週日ヲ經ルモ全ク治愈スルコトナク、慢性期ニ入ルトキハ微温消毒藥ヲ以テ毎日若クハ隔日一回膀胱洗滌ヲ行フベシ、而シテ此際二%硼酸水、〇.三%撒里矢爾酸水、〇.〇二—〇.〇一%硝酸銀液等治ク使用セラル。

附腎盂炎 Pyelitis 產褥ニ來ルハ膀胱炎ニ續發スルモノ最モ多ク、或ハ膿毒症ノ一症候トシテ來ルコトアリ、或ハ他ノ疾患ニ繼發スルコトアルハ猶ホ妊娠期中ニ於ケルガ如シ四二頁參照、之ニヨリテ惡寒、發熱、尿混濁、腎臟疼痛等ヲ來ス、初期ニ在リテハ膀胱炎ニ於ケルト同一ノ療法ヲ施シ、初メハ腎臟部ニ氷嚢ヲ貼シ後ニ至レバ温罨法ヲ貼ムベク、又腎盂洗滌ヲ要スルコトアリ。

第三 產褥期糞便蓄積症

Die Koprostase im Wochenbett.

妊娠期中ハ腸管蠕動機頗ル緩慢ナルモノニシテ從テ多量ノ糞便集積シ產褥ニ入ルモ依

然持續シ、偶々第三乃至第四日ニ於テ下劑ヲ投ズルモ奏效不十分ナルトキハ、遂ニ所謂糞便蓄積症ヲ發スルニ至ル、而シテ產褥中ニ發スル便秘ハ、子宮ノ復舊機轉ヲ障礙スルノミナラズ、腹膜ノ刺戟症狀ヲ發シ、下腹部膨滿鼓張シテ壓痛ヲ覺エ、屢々發熱、惡心、嘔吐ヲ伴ヒ一見重症疾患ト誤ルコトアリ、然レドモ子宮及其兩側ハ、毫モ疼痛ヲ有スルコトナク、盲腸部並ニ下行結腸部ニ壓痛アリ、且ツ其内ニ存スル硬固ノ糞塊ヲ觸知シ得ベク、内診ニヨリテモ亦直腸内ニ集積セル糞便ヲ認ムベシ。

療法。數回多量ノ蓖麻子油ヲ投ジ、同時ニ灌腸ヲ施ストキハ、便通ヲ來シ、症狀モ亦共ニ消退スルモノナリトス、其他多滿林度、大黃、旋那等モ亦用ヒラル。

第四 產褥期下肢疾患

Die Erkrankungen der unteren

Extremitäten im Wochenbett.

一 下肢ノ良性(無菌性)靜脈血塞 Die entzündlichen (aseptischen)

Venenthrombosen der unteren Extremitäten.

原因。產褥中下肢ノ良性靜脈血塞ヲ見ルコト稀ナリトセズ、而シテ其發スル已ニ妊娠中ニ於テシ、產褥ニ入りテ増大スルモノアリ、或ハ產褥ニ入りテ初テ生ズルモノアリ、其因テ來ル所以今ニ至ルモ全ク明カナルヲ得ズ、身體安靜増大子宮ノ壓迫ニ因スル血流ノ緩慢等ハ之ガ誘因ヲナスベキモノナランモ、血液性狀ノ變化モ亦恐クハ之ガ一助ヲナスモノ

ナルベキヲ思ハシム、然レドモ之ヲ以テ單ニ血管擴張性血塞トナスベキカ、抑モ又靜脈内面ノ變化ニ歸スベキカハ全ク不明ナリトス。

下肢靜脈内ニ原發スルモノアリ、或ハ子宮靜脈ニ於ケル血塞ノ蔓延ニ由リテ來ルモノアリ、而シテ其犯サル、ハ股靜脈、蓋微靜脈、腓骨靜脈等ナリ、同時ニ骨盤内靜脈、下腹靜脈及ヒ精系靜脈等ニモ亦發スルコト稀ナラズ、而シテ後三者ニ在リテハ臨牀上之ヲ診知シ得ザルノミナラズ、屢々肺動脈血栓ノ原因トナルモノナルヲ以テ不快ナル合併症ナリトス。

症狀。產褥第一週ノ終ニ發スルモノ最モ多ク、初メ足踝部ニ浮腫ヲ生ジ、漸次上方ニ蔓延シ、同時ニ罹患下肢ノ疼痛、知覺鈍麻運動不如意ヲ來シ、脈搏多クハ少シク頻數トナルベシ、既ニシテ數日ヲ經レバ凡テノ症狀自ラ消退スルヲ常トシ、僅ニ輕度ノ一時的運動障礙ヲ留ムルモノトス、時トシテ經過緩慢ニシテ數週乃至數月ニ亘リテ運動障礙ヲ貽スコトアリ、其他靜脈及ビ其周圍組織ノ炎症ヲ繼發シ、屢々小膿瘍ヲ生ズルコトアリ、又反覆肺血栓ヲ起ストキハ胸廓一部ニ疼痛ヲ覺エ、血痰ヲ生ジ且ツ發熱ヲ來スコトアリ。

豫後。一般ニ豫後佳良ナリト雖モ、血塞ノ一部剝離シテ肺血栓ヲ起ストキハ多クハ死ヲ免ル、能ハズ、又長時ノ就瘳ニヨリテ氣管枝肺炎ヲ來スコトアリ。

療法。絶對的安靜ヲ命ジ、罹患下肢ハ膝關節ニ於テ少シク屈折セシメテ之ヲ高位ニ置キ、且ツ濕性卷法ヲ貼スベシ、斯クテ少クトモ二—三週ヲ經、離牀セシメ得ルニ至ルモ尙ホ纏絡綳帶ヲ持續セシムルヲ可トス、又運動障礙ヲ留ムルモノハ受働的運動ヲ營マシメ、按摩

法ヲ施スベシ、然レドモ早期ニ失スルトキハ肺血栓ヲ來スノ恐アルヲ以テ發病後二乃至三週ヲ經テ甫テ之ヲ試ムベシトス。

二 下肢ノ神經痛並不全麻痺

Die Neuralgie und Parese der unteren Extremitäten.

産褥ニ來ル下肢ノ神經痛及不全麻痺ニシテ、分娩後直チニ其症狀ヲ來スモノハ分娩ニ際シ兒頭甚シク薦骨神經叢及閉鎖神經ヲ壓迫スルニヨルモノニシテ、鉗子遂娩ニ繼發スルコト最も多ク一般狹窄骨盤ニ於ケル自然分娩後ニ見ルコトモ亦屢々ナリトス、而シテヒュネルマン氏 *Hürnermann* ニヨレバ腓骨神經ニ來ルコト最も多シトイフ、是レ蓋シ其神經纖維ハ第四及第五腰髓神經ヨリ發シ、骨盤入口部ニ於テ容易ニ壓迫ヲ被ルベキヲ以テナリ、此種ノ神經痛及不全麻痺ハ通例數日ニシテ消退スルモノナレドモ、稀ニ數週乃至數月ニ亘リ、且ツ下肢筋肉ノ營養障礙ヲ伴フコトアリ。之ニ反シ分娩後數日若クハ週餘ニシテ初テ發スルモノアリ、之レ多クハ産褥性子宮周圍炎ニ因スル滲出物ノ壓迫ニヨリ、或ハ靜脈炎及靜脈周圍炎ノ近接神經ニ傳播スルニヨリ、或ハ子宮周圍若クハ腔周圍ニ生ゼル癰痕ノ萎縮ニヨルモノナリトス、此種ノモノニアリテハ其經過緩慢ニシテ且ツ主トシテ神經痛及知覺異常ヲ來シ、不全麻痺ヲ缺クコト多シトス、而シテ其來ルベキ部位固ヨリ一定セズト雖モ坐骨神經、股神經、閉鎖神經等ノ領域ニ屬スルモノナリトス。

療法。滲出物ヲ存スレバ消炎法ヲ施シ其吸收ヲ促進セシムベク、陳舊ナルモノニ對シテハ入浴及ビ電氣療法ヲ以テ最良トナス。

附、メビウス *Mebius* 氏ノ所謂産褥性神經炎、*Nemius puerperalis* トハ多クハ産褥中ニ發生シ時トシテ妊娠中ニ已ニ現ハル、末梢神經ノ麻痺ニシテ常ニ疼痛、知覺異常及筋肉萎縮ヲ伴ヒ、所謂産褥性麻痺、*Wochenbettslähmung* ト稱スルモノニシテ産褥熱ニ繼發スルコト稀ナラズ、而シテ其限局性ナルハ多クハ上肢ヲ犯スト雖モ時トシテ下肢ニモ亦現ハル、コトアリ、其豫後佳良ナリトス、之ニ反シ汎發性ナルハ腦神經ヲモ侵襲シ屢々ランドリト氏麻痺症 *Landry'sche Paralyse* ニ類スルコトアリ豫後多クハ不良ナリトス。

第四章 乳房疾患 Die Krankheiten der Brüste.

第一 機能障害 Die funktionelle Störungen.

一 無乳症 Agalactie.

乳汁分泌ノ微量ナルハ往々見ル所ナリト雖モ其全ク缺如スルハ極メテ稀有ナリトス、若年及高年初産婦、脂肪過多症、早産、死胎分娩後等ニ於テ無乳症ヲ發スルコトアリ、又既往分娩ニ於テ自ラ授乳セザリシ頻産婦ニ在リテハ、乳腺萎縮ニ陥リテ分泌全ク休止スルコト

アリ、又當初多量ニ分泌セシ乳汁ニシテ不攝生、下痢、發熱、精神感動、恐怖、憂慮、驚愕、重患、乳腺炎等ニ由リ遽ニ減少スルコトアリ、其他菜食及粗食ニ慣レシ乳母ヲシテ乍チ肉食ニ遷ラシムルトキハ殆ンド常ニ乳汁分泌ノ休止ヲ來スハ注意スベキ事ナリトス。

二 多乳症 Polylactia.

乳腺ノ分泌機能旺盛ニシテ嬰兒ノ之ヲ攝取スルコト十分ナルニ拘ハラズ、乳腺ハ常ニ多量ノ乳汁ヲ分泌スルモノヲイフ、全身ノ榮養之ガ爲ニ障害セラレ、貧血ヲ來シ衰弱ニ陥ラシムルニ至ルコトアリ。

療法。沃剝ヲ内服セシメテ其吸收ヲ促シ、局所ニ壓抵綳帶ヲ施シ、且ツ時々乳汁ヲ搾出スベク、同時ニ全身營養ノ増進ヲ圖ラザルベカラズ。

三 乳漏症 Galactorrhoe.

乳兒滿腹シテ已ニ離乳スルモ尙ホ一側若クハ屢々兩側乳房ヨリ斷ヘズ稀薄水様乳汁ヲ淋瀝セシムルモノヲイヒ、甚シキハ一日數リテ漏出スルコトアリ、爲ニ胸部皮膚濕潤シ糜爛ヲ來スニ至ル、而シテ本症ハ頗ル頑固ニシテ數月加之年餘ニ亘ルコトアリトス、故ニ多乳症ト同ジク他ノ過度液質損亡ニ於ケルガ如ク、營養ヲ阻害シ身體ノ衰弱ヲ招キ、慢性貧血ノ狀ヲ呈スルニ至ル、即チ顔面蒼白トナリ、瘦削甚シク、頭痛及ビ薦骨部疼痛ヲ訴ヘ、食嗜減損シ、心悸亢進ヲ來シ、筋肉疲勞ニ因スル膝部震顫ヲ發スルニ至ル、所謂授乳性、臍削 Tabes lactea 是レナリ、時トシテ視力障礙加之黒内障ヲ來スコトアリ、然レドモ此種黒内

障ハ貧血ノ恢復ト共ニ治癒スルヲ常トス、偶々潜伏性結核ノ存スルアルトキハ前記狀態ノ下ニ於テ卒然増悪スルコト屢々ナリトス、生殖器就中子宮ハ萎縮シテ妊娠前ニ比シ小ナルニ至ル。

療法。速ニ授乳ヲ廢セシメ局處ニ壓迫綳帶ヲ施シ、新鮮ナル空氣中ニ居ラシメ、適度ノ運動ヲ勸メ、營養食餌ヲ攝ラシメ、鐵劑、規那劑或ハ沃剝ヲ内服セシムルトキハ多クハ久シカラズシテ治癒スルモノナリ、又子宮萎縮ニ因スル無月經ヲ繼發スルコトアルヲ以テ腔灌注、子宮腔部ノ亂刺等ヲ以テ之ニ備フルヲ可トス。

四 乳汁鬱積症 Galactostase.

乳汁排泄其分泌ニ準ズルヲ得ズシテ鬱積ヲ來シ、乳腺著シク緊張シテ硬固ノ結節ヲ爲シ、且ツ疼痛ヲ伴フコトアルヲイフ、通例產褥第三乃至第四日ニ發スルモノニシテ此際往々ニシテ三八度内外ノ一時性發熱ヲ見ルコトアリ、所謂乳熱 Milchfieber 是レナリ。
療法。濕布綳帶ヲ施シ或ハ溫卷法ヲ貼スベク、授乳セザルモノニ對シテハ鹽類下劑ヲ處スルヲ可トスルコトアリ。

第二 乳嘴皸裂 Die Schrunden der Warze.

原因。乳嘴ノ皮膚軟弱ナルモノニ於テ嬰兒強ク之ヲ吸引スルトキハ爲ニ表皮ハ水泡狀ニ隆起シ其破裂ニヨリテ表皮剝脫ヲ來スコトアリ、而シテ其之ヲ見ルコト乳嘴皸裂ノ基

底部ニ多キヲ以テ從テ茲ニ皸裂 *Rasade* ヲ生ズルニ至ル殊ニ初産婦、陷凹乳嘴、乳嘴保護ノ不充分ナルモノ、不潔物ヲ以テ被覆セラレシモノ等ニ來ルコト多シ、又乳嘴ノ形狀不良ナルカ或ハ乳汁分泌僅少ナルモノニ在リテハ、生兒努メテ強ク之ヲ吸引スルヲ以テ此種ノ損傷ヲ生ズルコトアリ、而シテ一般ニ都人富者ニ於テ之ヲ見ルコト多シ、是レ蓋シ一ハ服裝胸部ヲ壓迫シテ乳嘴ノ發育竝ニ其隆起之ガ爲ニ阻害セラレ、且ツ妊娠中時々起ルベキ分泌物ノ排出之ニヨリテ不充分トナリ、其乾燥ニ由リテ痂皮ヲ生ジ、爲ニ表皮軟弱トナルト一ハ衣服柔軟ナルニヨリ、皮膚ノ機械的刺戟ニ接スルコト少ク、從テ抵抗力ヲ享有スルコト僅微ナルトニ因ル、離裂ハ多クハ乳嘴中央ニ向テ放線狀ヲナスト雖モ時トシテ其底部ニ横走スル裂創ヲ生ズルコトアリ。

症狀 乳嘴離裂ヲ生ズルトキハ、哺乳ニ際シ創面ニ露出セル神經末梢ノ機械的刺戟ヲ受クルガ爲メ劇痛ヲ來シ、殆ンド堪フベカラザルモノアルノミナラズ、哺乳ヲ持續スルトキハ一たび癒合シ結痂ヲ生ゼルモノモ再ビ哆開シ久シキニ彌リテ治スルコトナクンバ、多クハ傳染ヲ來シ濃汁ヲ分泌シ、或ハ遂ニ變ジテ潰瘍トナリ、而モ尙ホ授乳ヲ停止セザレバ潰瘍更ニ蔓延シテ乳嘴ノ大部分ヲ占斷スルニ至リ、或ハ廣汎ナル皮膚炎若クハ蜂窩織炎ヲ起スコトアリ、而シテ又裂傷乳嘴基部ニ存スルトキハ爲ニ其一部乳房ヨリ離斷スルコトアリ、或ハ傳染深部ニ波及シテ乳房炎ヲ誘起スルコト稀ナラズ。又時トシテ哺乳ニ臨ミ乳兒ノ強力ナル吸引ニヨリテ創面ノ血管離斷スルトキハ兒ハ爲

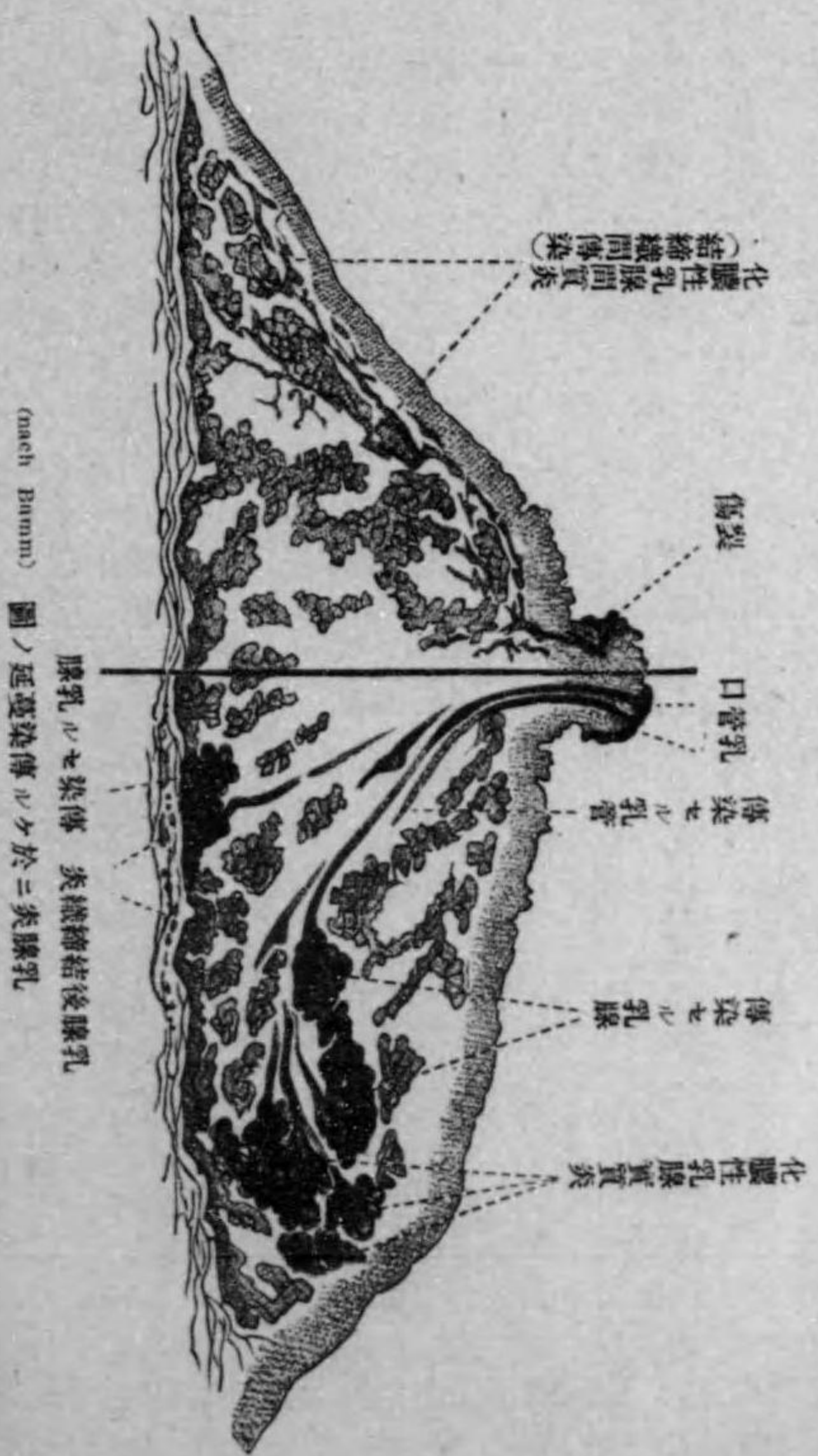
ニ血液ヲ嚥下シ、後ニ至リテ再ビ之ヲ吐出スルカ、或ハ腸管ヨリ排出シ糞便ニ黑色ヲ呈セシムルコトアリ、之ヲ假性黑吐病 *Melena spuria* ト稱ス。

療法 豫防法ニ就キテハ既ニ妊娠生理編ニ於テ述べタルガ如ク、専ラ乳房ノ攝生ニ注意スベク、硼酸濕布ヲ施スモ亦其一助タルヲ失ハズト雖モ必ズシモ之ニヨリテ常ニ其發生ヲ避ケ得ルモノニアラザルナリ。

既ニ本症ヲ發スルトキハ四% 硼酸水ヲ以テ局部ノ溫罌法ヲ施スベシト雖モ濕性溫ハ時トシテ乳嘴皮膚ヲ軟浸シテ却テ銳敏性ヲ劇増セシムルコトアルヲ以テ注意セザルベカラズ、其他百露拔爾撒謨、虞里設林或ハ密兒拉丁幾等ヲ塗布シ不潔ノ手指若クハ布片ノ接觸ヲ避クベシ、斯クテモ治癒セザルトキハ兩三回ノ授乳ヲ廢シ、一日一回五% 硝酸銀液ヲ以テ創面ヲ腐蝕スルトキハ屢々卓效ヲ收ムルコトアリ、但腐蝕ノ際劇甚ナル疼痛ヲ來スヲ憾トス、三〇% 過酸化水素、五% 石炭酸虞里設林等モ亦此目的ニ對シテ推奨セラレ、如上ノ療法モ亦奏效スルコトナクシテ病機進捗ノ傾向ヲ示ストキハ、授乳ニ當リ乳嘴帽 *Zanghitchen* ヲ用ヒ、生兒口唇ト乳嘴ト直接スルコト、ナカラシムルトキハ離裂治癒ヲ速カナラシメ得ベシ、然レドモ乳嘴帽ヲ介シテ吸引セシムルコトモ亦然ク容易ナラザルコト屢々ナリトス、既ニ乳腺炎ノ徵ヲ發セバ直チニ授乳ヲ禁止セシメザルベカラズ。

第三 乳腺炎 Mastitis

原因。乳腺炎ハ化膿菌殊ニ黄色、葡萄、状、球、菌、稀ニ連、鎖、状、球、菌、ノ侵入ニヨルモノニシテ、皮膚損傷就中乳嘴皸裂ノ存スルニ當リ不潔ナル手指、布片等ノ之ニ接觸スルニヨリテ起リ、稀ニ乳兒口腔ヨリ來ルコトアリ、而シテ病原菌ハ或ハ淋巴管ヲ傳ハリ、或ハ乳管ヲ通ジテ竄入シ、又時トシテ膿毒症ノ轉移トシテ現ハル、コトアリ、乳汁ノ鬱積及ビ不規則ノ排泄ハ傳染ヲ介助スルコト大ナリトス。



(nach Braun) 圖ノ延蔓性傳染ルケ於ニ炎性乳

其他乳腺炎ハ臨牀上殆ンド常ニ授乳婦ニ來リ、殊ニ初産婦ニ於テ然リトス又稀ニハ妊娠中ニ發スルコトアリ、授乳セザル梅毒ニ見ルハ極メテ稀有ナリトス。

病理解剖。乳腺炎ハ所謂滲出性炎ニシテ組織ノ融解若クハ膿瘍形成ヲ來スモノナリ、而シテ乳房全部ヲ犯スハ稀ニシテ多クハ其一部ニ限局シ、殊ニ下半部ニ來ルモノ最モ多シトス。

化膿性乳腺實質炎

化膿性乳腺實質炎

乳腺後方炎
乳腺周圍炎

病、菌、細、乳、管、ヨリ、竄、入、シ、テ、腺、質、ニ、達、シ、此ニ繁殖スルヤ先ヅ乳汁ノ凝固ヲ來シ、次デ腺上皮ノ崩壞ヲ招キ、更ニ進ミテ周圍結締組織ヲ侵襲シテ膿瘍ニ陥ラシメ、腺實質ト共ニ化膿セシメ健全組織ト限割セシムルニ至ル、之ヲ化膿性、乳、腺、實、質、炎、*Mastitis parenchymatosa purulenta*ト稱シ、通例黄色葡萄状球菌ニヨリテ起ルモノナリ。

病、菌、淋、巴、管、ヲ、通、ジ、テ、乳、腺、實、質、間、結、締、組、織、ニ、達、ス、ル、ノ、傳、染、經、路、ヲ、取、ル、モノ、ハ、稀、ニ、見、ル、所、ニ、シ、テ、通、常、連、鎖、狀、球、菌、ニ、ヨ、リ、テ、來、ル、モノ、ナ、リ、此、際、炎、症、ハ、乳、嘴、ヨ、リ、漸、次、周、邊、ニ、蔓、延、ス、ル、コ、ト、恰、モ、丹、毒、ニ、於、ケ、ル、ガ、如、シ、斯、ク、テ、腺、胞、周、圍、結、締、組、織、及、脂、肪、組、織、ノ、化、膿、ヲ、來、ス、ニ、至、ル、之、ヲ、化、膿、性、乳、腺、間、質、炎、*Mastitis interstitialis purulenta*ト稱ス。

炎症進捗スレバ以上兩者共ニ其歸終ヲ一ニス、即チ無數ノ小膿瘍ヲ生ジ、漸次融合シテ一大膿腔ヲ形成シ、壞疽組織片膿汁内ニ浮游スルヲ見ルニ至ル、膿瘍更ニ増大スレバ遂ニ外方ニ穿潰スルヲ常トスレドモ時トシテ炎症乳腺ノ後方ニ存スル鬆疎結締組織ニ波及シ、所謂乳腺後方炎、*Retromastitis* 若クハ乳腺周圍炎、*Paramastitis* 等ヲ來シ、爲ニ腺質全ク膿汁内

ニ浮動スルニ至ルコトアリ。
 症狀。通例産褥ノ第二乃至第六週ニ發シ、初メ惡寒、高熱ヲ來シ、同時ニ當該乳房ニ劇痛ヲ感ジ、之ヲ觸ルレバ甚シキ壓痛ヲ有スル硬固ノ結節ヲ認ム、時トシテ瀰蔓性浸潤ヲ呈スルモノアリ、疼痛時ト共ニ劇増シ、發熱持久シ、罹患部皮膚發赤シ、腋下腺モ亦腫脹シ、同側上肢ヲ運動スルトキハ劇甚ナル疼痛ヲ覺ユルニ至ル。
 經過良好ナルモノニ在リテハ、第二日ニ於テ既ニ體温下降シ、硬結漸次柔軟トナリ、遂ニ吸收セラルベシト雖モ、屢々其一部ヲ留メ偶々攝生宜シキヲ得ザルモノアルトキハ再發シテ其暴威ヲ逞スルモノアリトス、若シ數日ヲ經テ而モ解熱セザルトキハ常ニ化膿ニ陥レルモノニシテ膿瘍増大スルト共ニ漸次表面ニ近邇シ、遂ニ外方ニ穿潰シ、熱亦消退シテ自ラ治ニ就クモノナリ、然レドモ又逐次新膿瘍ヲ形成シ、數週乃至數月ニ亘リテ治癒セズ、乳房大部分全ク崩壞スルモノ尠シトセズ、此ノ如ク持久ノ發熱ト化膿トハ患婦ノ營養ヲ阻害スルコト勿論ナリト雖モ、之ガ爲ニ高度ノ削瘦ト著明ノ貧血トヲ來スガ如キハ却テ稀ナリトス。
 豫後。佳良ニシテ之ガ爲ニ死ヲ來スコトナシ、而シテ其治癒ノ遲速良否ハ固ヨリ療法ノ善惡ニ關スルモノニシテ、攝生其宜ニ適シ、且ツ手術的操作ノ期ヲ誤タザレバ克ク其經過ヲ短縮シ、其蔓延ヲ抑制シ得ルモノナリ、經過在再スルモノニ在リテハ時トシテハ遺傳素因アルモノニシテ結核ヲ誘發スルコトアリトス。

療法。豫防法トシテハ乳嘴ヲ清潔ニシ且ツ之ニ觸接スベキ手指及ビ器物ハ凡テ不潔ナラシムベカラズ、而シテ乳嘴ノ輝裂若クハ裂傷ヲ見バ速ニ之ヲ治療セザルベカラズ。
 既ニ本症ヲ發セバ直ニ授乳ヲ廢セシメ、提扛帶ニヨリテ乳房ヲ固定シ、二%硼酸水若クハ一、五%醋酸礬土水ヲ以テ濕罨法ヲ施シ、且ツ冰嚢ヲ貼シ、同時ニ峻下劑ヲ投ズルトキハ克ク緊張及疼痛ヲ輕減シ得ルノミナラズ屢々化膿ヲ防遏シ得ルコトアリ、近來此時期ニ於テピール氏醇血法ノ適用ヲ推奨スルモノアリ、即チ各三分時ノ間歇ヲ措キテ五分間ノ吸引法ヲ爲スコト五回トス、斯クテ四十五分時ニシテ全ク操作ヲ終リ翌日更ニ之ヲ反覆ス、而シテ此際疼痛ヲ來サシムベカラズ、又乳房ハ滅菌布片ヲ以テ能ク之ヲ庇護スベシ。
 病機進捗シテ化膿ニ陥リ、波動ヲ呈スルニ至レバ直チニ之ヲ切開シテ排膿ヲ行フベシ、即チ先ヅ麻醉ヲ施シ局處ノ消毒ヲ終リ波動ノ著明ナル部位ニ於テ乳嘴ニ對シ放線狀ノ一切創ヲ加フベシ、而シテ創口ハ過小ナルベカラズ、少クトモ容易ニ一指ヲ膿腔ニ送入シ得ベカラシムルヲ要ス、斯クテ排膿ヲ終レバ消毒藥ヲ以テ治ク腔内ヲ淨洗シ、排膿管ヲ裝置シ、繃帶ヲ纏絡スベシ、又體温再ビ昇騰シテ膿汁停滞若クハ新膿瘍形成ノ徵ヲ示ストキハ、繃帶ヲ去リ膿汁ヲ排出セシメ、或ハ要ニ臨ミテハ新ニ切開シ、若クハ小刺創ヲ加ヘ更ニ吸角ヲ適用シテ膿汁ヲ吸取スベシ、然レドモ乳房ヲ壓搾シテ膿汁ヲ排泄セシムルハ却テ不可ナリトス。

第五章 產褥期偶發疾患

Die zufällige Erkrankungen im Wochenbett.

第一 產褥性猩紅熱 Scharlach im Wochenbett.

產褥ニ發スル猩紅熱ハ決シテ特異ノモノニアラズシテ非產褥性ノモノト同一疾病ニ外ナラズ、而シテ其傳染ハ妊娠期中若クハ分娩時ニ起ルモノナリ。

症候。多クハ產褥第一日ニ於テ突如高熱ヲ以テ襲來スルモノニシテ爾後ノ經過ハ非產褥性ノモノニ同ジ、然レドモ出血性猩紅熱ヲ見ルコト多ク、時トシテ口狹炎甚ダ輕微ナルモノアリ或ハ產褥創傷ノ經過之ガ爲ニ障害セラル、コトアリ、其他劇烈ナル下痢ヲ來スコトアリ。

診斷。時トシテ敗血性發疹ト誤認スルコトアリ、然レドモ猩紅熱發疹ハ突然襲來セル高熱ノ極期ニ發生シ、敗血性發疹ハ其經過中ニ於テ出現シ寧ロ瀰蔓性ニシテ而モ一時性ナリトス、其他猩紅熱ニ於ケルガ如ク其發生廣汎ナラズトス、然レドモ屢々其鑑別困難ニシテアールフェルド及ジユルゲンゼン氏 Alfeld, Jürgensen ノ如キハ所謂產褥性猩紅熱ハ畢竟發疹ヲ有スル敗血性疾患ニ外ナラズトセリ。
猩紅熱病原菌ハ今尙ホ不明ニ屬ス、然レドモ概シテ混合傳染ニシテ多クハ連鎖狀球菌ヲ有ス、殊ニ產褥性猩紅熱ニ於テ然リトス。

豫後。產褥時以外ノモノニ比シテ一般ニ豫後不良ナリト稱セラル殊ニ溢血性ナルニ於テ然リトス。

療法。產婦及ビ褥婦ハ猩紅熱ニ感染シ易キモノナルヲ以テ特ニ豫防法ニ注意セザルベカラズ、即チ本症患者ニ接セル人體若クハ布片、器具等一切之ニ近ヅカシムベカラズ。療法ハ非產褥性ニ對スルト異ナルナシ、フリッツ及マイヤー氏 Fritze, Mayer ハ連鎖狀球菌敗血症ヲ豫防セン爲メ抗連鎖狀球菌血清ノ注射ヲ推奨セリ。

第二 肺動脈血栓 Die Embolie der Lungenarterien.

原因。骨盤靜脈稀ニ股靜脈内ニ生ゼル血塞ノ一部游離シテ血流ニ混ジ、右心ヲ經テ肺動脈ニ入り、其分枝ヲ閉塞スルニヨリテ起ルモノニシテ身體激動、排便時怒責、重荷ノ提舉等ニヨリテ直接誘發セラル、モノナリ、又胎盤剝離面靜脈開口部ヨリ空氣ノ竄入スルニヨリテ起ルコトアリ。

症狀。血栓大ニシテ肺動脈ノ本幹若クハ其大分枝閉塞セラル、トキハ卒然呼吸困難ヲ來シ喘咳性呼吸ヲ營ミ、ちあの一セヲ發シ、體溫低下シ、恐怖煩悶名狀スベカラザルモノアリ、遂ニ神識喪失ヲ來シ、須臾ニシテ仆ル、ニ至ル、又若シ血栓小ナルトキハ即時死ヲ見ルコトナク、數日ニシテ甫テ死スルコトアリ、時トシテ神識喪失ニ次デ搖蕩ヲ發シ或ハ乍然顔面蒼白トナリ、脈搏休止シテ斃ル、コトアリ、是レ恐クハ空氣若クハ血塞冠狀動脈ヲ閉

塞スルニヨルモノナルベシ。
 療法 豫防法最モ緊要ナリ即チ下肢ニ浮腫、知覺異常等ノ徵スベキモノナクモ、體溫ニ比シ脈搏著シク駿速ナルトキハ血塞ノ存在ヲ疑ヒ、患者ヲシテ絶對的安靜ヲ嚴守セシメテ血塞ノ剝離ヲ防グベシ、既ニ肺血栓ヲ來セバ殆ンド救フベキノ途ナシト雖モ、而モ又症狀劇烈ナルモノニシテ克ク治療スルモノナキニアラザルヲ以テ決シテ斷念スベキニアラズ、先ヅ胸部ニ芥子泥ヲ貼シ興奮劑ヲ投ズベク、幸ニシテ症狀輕減スルアラバ更ニ安靜ヲ持續セシメ以テ新ニ血栓ヲ生ズルコトナカラシムベシ。

第三 產褥性精神病 Die puerperale Psychose.

婦人精神作用ハ生殖器ノ機能並ニ其疾患ト深甚ノ關係ヲ有スルモノニシテ全女子精神病者ノ一三、〇乃至一四、〇%ハ實ニ其生殖作用ニ干繋スルモノナリトイフニ見ルモ其一斑ヲ知ルベシ、而シテ妊娠中ニ於テ既ニ精神ノ變動ヲ來シ、快活ナルモノ鬱悒性トナリ、謹嚴ナリシモノ輕快洒脱トナリ、或ハ進ミテ眞性精神病トナルコトアルハ既ニ前述スル所ノ如シ(上卷六六頁、下卷四八頁參照)而シテ其因テ來ル所以ハ妊娠及ビ分娩ニ於テ來ル腦ノ充血ト、血液性狀ノ變化トニ在リテ存スト雖モ、又妊娠分娩、產褥ニ起因スル全身營養ノ障礙ハ蓋シ其主要ナル誘因ヲナスガ如シ、殊ニ遺傳素因ヲ有スルモノニ於テ然リトス。
 產褥期ニ於ケル精神病ハ妊娠性精神病ノ持續セルモノナルコトアリ、或ハ產褥期ニ入り

テ特發スルモノナルコトアリ。

原因及症候。 オルスハウゼン氏 *Oslunson* ハ其原因ニヨリテ產褥性精神病ヲ三種ニ別テリ即チ次ノ如シ。

一 特發性精神病 *Idiopathische Psychose.*

殊ニ遺傳素因ヲ有スルモノニ見ルコト多ク、分娩時ニ來ル精神興奮、疼痛若クハ產褥時衰憊等ニヨリテ誘發セラレ、モノニシテ、通例產褥第五乃至第十日ニ發シ稀ニ分娩直後ニ來ルコトアリ、多クハ躁狂ナリト雖モ時トシテ鬱悒性、或ハ幻覺性錯亂ヲ來スコトアリトス。

二 傳染性精神病 *Infektionspsychose.*

產褥熱經過中ニ發生スルモノニシテ產褥第四乃至第十日ニ起ルト雖モ多クハ熱性疾患激烈ニシテ患者昏睡状態ニ在ルヲ以テ其初期明瞭ナラズ、加之全ク看過セラレ、コト屢々ナリ、症狀一定セズト雖モ多クハ躁狂ナリトス、其他本病ハ屢々產褥性靜脈血塞若クハ潰瘍性心内膜炎ニ併發スルモノナリ。

三 中毒性精神病 *Intoxikationspsychose.*

子癩ニ繼發スルモノニシテ昏睡ヨリ覺醒スルヤ直チニ發スルモノアリ、或ハ一兩日ニシテ來ルモノアリ、熱發ヲ伴フコトナク、幻覺ヲ有スルヲ以テ特徴トナシ、多少ノ身體的不穩ヲ呈スルモ考察力渾沌シ易ク、且ツ概シテ鬱悒性傾向ヲ有スルモノナリ。

授乳性精神病 Laktationspsychose.

殆ンド常ニ產褥經過後即チ分娩後第三乃至第五月ニ至リテ發スルモノニシテ授乳ニ因スル身體衰弱及ビ貧血ニヨリテ起ルモノナリト雖モ其個人性ニ關スルコト大ナルモノアリ而シテ其病症ハ躁鬱病又ハ緊張病ナリ。

豫後 特發性精神病ノ豫後ハ生命ニ關シテ不良ナラズト雖モ多クハ完全治癒ヲ見ルコトナク少クトモ經過頗ル緩慢ニシテ數月乃至年餘ニ及ブモノトス。

傳染性精神病ハ其原病既ニ重大ナルモノナルヲ以テ生命ニ關スル危險頗ル大ナリトス。中毒性精神病ハ多クハ兩三日ニシテ全ク治癒スルモノナリ。

授乳性精神病モ亦多クハ豫後可良ナリ。療法 初期ニ在リテハ直チニ授乳ヲ廢シ專ラ外界ノ刺激ヲ避ケ麻酔藥殊ニ抱水格魯拉兒ヲ與フベク重症就中鬱悒狂者ハ速ニ癲狂院ニ送致セザルベカラズ然レドモ事情已ム

ナクンバ之ヲ幽室ニ隔離シ監視ヲ嚴ニシ躁暴自殺等ヲ警メ大量ノ臭劑(一日量六一〇〇)ヲ投ジ持續溫浴ヲ取ラシムルヲ可トス通利調節モ亦最モ意ヲ用フベク殊ニ授乳性精神病ニ於テハ榮養増進ヲ圖ラザルベカラズ。

附 錄

初生兒疾患及其療法

Die Erkrankungen und Behandlungen der Neugeborenen.

初生兒ノ定義

初生兒トハ其管テ母體ト關聯セル痕跡ヲ有スル嬰兒ヲ謂フ即チ臍帶殘部尙ホ存スルカ又ハ已ニ脱落スルモ臍輪ニ輕微ナル肉芽面ヲ留メ生後第十二乃至第十五日ニ及ビ癒痕ヲ形成シ終ル迄ノ期間ヲイフ而シテ所謂初生兒疾患モ亦固ヨリ其種類多シト雖モ本篇ニ於テハ其主要ナルモノニ就キテ少シク述ブル所アラントス管テミンヘン大學教室ニ於テ發表セル次ノ如キ統計ニヨリテ吾人ハ其一般ヲ窺フヲ得ベシトス。

微毒	二一・六%	生活力微弱	二〇・〇%
營養障害	一〇・一%	肺萎縮	八・三%
黃疸	八・三%	腦膜炎	八・三%
肺炎	五・〇%	腹膜炎	三・三%
腎臟楔狀硬塞	三・三%	臍出血	一・六%

第一 肺萎縮 Atelectasis pulmonum.

原因 未熟兒又ハ孱弱生兒ニシテ呼吸力微弱ナル者或ハ分娩時粘液若クハ羊水等ヲ吸入シテ氣管枝ヲ閉塞シタル者等總テ肺氣胞内ニ空氣進入シ得ザルニヨリテ來ルモノナリ。

症候 後天性肺萎縮ニ比シテ患部概シテ廣大ニシテ從テ理學的診斷法ニヨリテ之ヲ判知シ得ベク、打診上濁音ヲ呈シ且ツ呼吸音頗ル微弱ナルカ或ハ全ク消失ス、又小循環系ニ著シキ障碍ヲ及ボシ、全身靜脈ニ鬱血ヲ來シ、高度ノちぢのーセヲ發スルニ至ル。

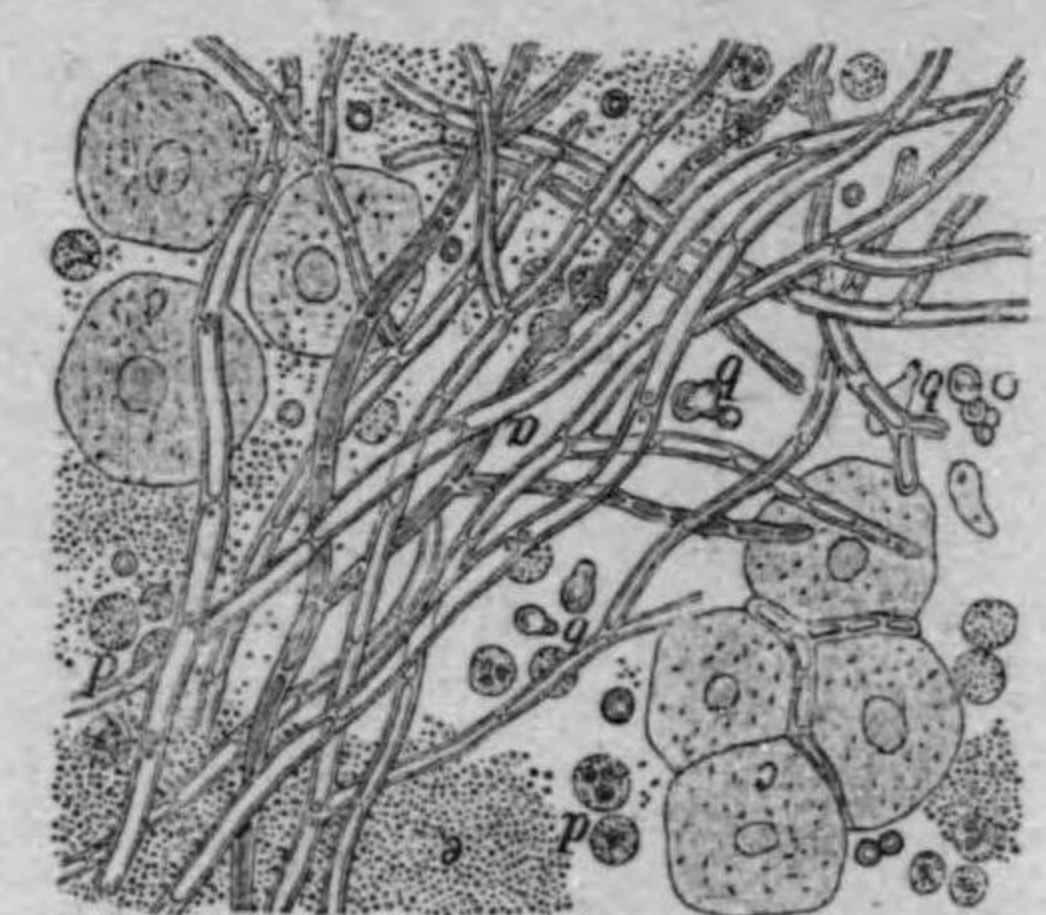
豫後 多クハ生後一週日以内ニ於テ虚脱症狀ノ下ニ死亡ス。

療法 假死ニ於ケルガ如ク呼吸促進法ヲ施スヲ以テ主要トナス、即チ温浴ヲ取ラシメツツ胸部、背部等ニ冷水ヲ灌ギ、上氣道内異物ハ氣管カテーテニヨリテ之ヲ除去シ、要ニ臨ミテハシユルツエ氏振搖法ヲ試ミ、浴後ハ温布ヲ以テ皮膚ヲ摩擦シ、或ハ横隔膜神經ニ感傳電氣ヲ通ジ、兼テ身體ノ保温ヲ計ルベク、且ツ赤酒、ホフマン氏液等ノ興奮劑ヲ投ズベシ。

第二 驚口瘡 Soor, Aphthophytia.

原因 本症ハ一八四四年ベルグ氏 Berg ノ研究ニヨリ初メテ驚口瘡、菌、*Soorhitz*, *Saccharomyces albicans* ニヨリテ起ル傳染性疾患ナルコトヲ闡明スルニ至レリ、而シテ乳兒殊ニ生後一ヶ月未滿ノモノニ多ク、口内清潔法ノ不全、榮養不良若クハ虚弱等其誘因トナルヲ以テ人工榮養兒ニ多シトス。

圖 一 十 五 百 第



a 驚口瘡菌絲
b 芽胞(菌芽)
c 上皮細胞
d ロイコチーテ
ン(白血體)
敗潰物

症候 口腔及咽頭粘膜ニ於テ諸所ニ散在セル粟粒大ノ乳汁凝固ノ如キ斑點ヲ生ジ、容易ニ拭去スル能ハズ、強テ之ヲ除ケバ出血シ易キ炎症粘膜ヲ露出ス、斑點ハ漸次増數擴大シテ互ニ相接著シ、遂ニ口腔粘膜全面ニ蔓延シ、甚シキハ會厭、食道、胃ニ波及スルコトアリ、試ニ苔皮ノ一片ヲ取リテ之ヲ鏡下ニ檢スレバ遊離散在シ或ハ二個若クハ數個併列セル芽胞 *Gonidia* 及分枝ヲ有スル細長菌絲 *Mycelium* ヲ認ムベシ。

初メ全身症狀ヲ發スルコトナキヲ常トスト雖モ次デ吸引ニ因スル疼痛(啼泣)ヲ來シ、口腔粘液強酸性ヲ呈スルニ至リ、口内惡臭ヲ放チ、粘膜乾燥シ、嘶嘎ヲ發シ、哺乳ヲ厭ヒ、切リニ啼泣シ、睡眠ニ就カズ、漸ク衰憊ニ向フ、驚口瘡菌ノ醱酵ニ因スル消化不良並ニ下痢ニヨリテ榮養著シク障害セラレ、遂ニ斃ル、ニ至ルコトアリ、輕症ニ在リテハ一週日以内ニシテ治癒スベシト雖モ、重症ニ於テハ在苒持久加之頻回再發シ、就中瘦削性小兒ニ在リテハ死ニ至ルマデ消退セザルモノアリ、稀ニ咽喉頭ノ閉塞若クハ狹窄、細菌吸入ニ因スル氣管支肺炎等ニヨリテ仆ル、コトアリ。

療法 勉メテ口内ノ清潔ヲ計リ、過滿俺酸加里、硼砂、鹽酸加里等ノ溶液ニ蘸シタル布片若クハ毛筆ヲ以テ粘膜ヲ淨拭スベク、兼テ胃腸障碍ヲ發セルモノハ之ヲ治療スベシ。

(1) 過滿俺酸加里 〇〇三—〇〇一五

餾水 二〇〇

右拭淨料

(2) 硼砂 一〇—五〇

虞里設林

右同上

(3) 鹽酸加里 一〇—一五

餾水

右同上

(4) 撒魯兒 二〇

酒精

右同上

食道若クハ胃内ニ於ケル細菌ヲ滅殺スルニハ

レゾルチン 〇五—一〇

餾水

右一二年ノ小兒ニハ毎二時間毎ニ一小匙匙宛

第三 亞布答

Aphthen, Stomatitis aphthosa.

ベドナール氏亞布答

口内ニ殘留セル乳汁凝固シテ粘膜ニ附着シ、桿菌ニヨリテ分解ヲ起シ、粘膜ヲ刺戟シ、潮紅、表皮剝脫若クハ潰瘍ヲ形成シ、哺乳時疼痛ヲ來スコトアリ、之ヲ亞布答トイフ、而シテ初生兒ニ在リテ硬口蓋後部ニ於テ通常對稱的ニ齒槽突起部ニ相當シテ卵圓形ヲ有スル汚灰黃色ノ潰爛面ヲ生ズルコトアリ、其基底ハ深ク骨ニ達シ、周圍粘膜少シク赤色ヲ呈ス、之ヲベドナール氏亞布答 Behnar'sche Aphthen ト稱ス。

療法、口内ノ清潔ニ注意スベシ、Epsstein ノ說ニヨレバ口腔粘膜ノ強劇ナル摩擦ハ本症ノ誘因トナルモノナルヲ以テ哺乳後之ヲ拭淨スルニ當リテハ可及的柔軟ナル布片ヲ以テ輕ク之ヲ行フベシ。

既ニ本症ヲ生ズルモ多クハ特殊ノ治療ヲ要スルモノニアラズ、然レドモ患部漸次増大スルノ傾向アルトキハ一〇—一〇〇硼砂ヲ三〇〇ノ單舍利別ニ混ジテ塗布シ又ハ一〇% 皁礬水、五—七% 硝酸銀水ヲ用フベシ。

第四 濕爛又摩擦疹

Intertrigo.

一種ノ紅斑性濕疹ニシテ鼠蹊部、會陰、外陰部、臍窩、膝關節及ヒ肘關節ノ屈折面等皮膚皺壁ノ存スル部分ニ來リ殊ニ肥滿セル小兒ニ多シトス。

局部ノ皮膚腫脹濕潤シ、上皮軟化剝脫シ潰瘍狀ヲ呈シ、甚シキ疼痛ヲ起スヲ以テ小兒劇シク號叫シ且ツ安眠セザルニ至ル。

療法。器械的化學的若クハ温度的ノ刺激ヲ除キ、屢々入浴セシメテ清潔トナシ、亞鉛華澱粉、シカロール、デルマトール、アイロール、イトロール、タンノフォルム、キセロフォルム等ヲ撒布シ、或ハ華攝林、硼酸軟膏等ヲ用フ、頑固ニシテ容易ニ治癒セザルトキハ二―三%硝酸銀水、〇.五%昇汞水ヲ塗布シテ奏效スルコトアリ。

第五 初生兒膿漏眼 Ophthalmoblenorrhoea neonatorum.

分娩經路ニ於テ淋菌ノ傳染ヲ蒙ルカ、或ハ生後數日ヲ經テ淋菌ヲ有スル惡露ニ汚染セル手指等ヨリ感受スルニヨリテ起ルモノナリ。
症狀。分娩時感染セルモノハ多クハ生後第三乃至第五日ニ至リテ眼瞼結膜竝ニ眼球結膜著シク充血腫脹シ、膿汁ヲ分泌シ、病症増進スレバ眼瞼皮膚甚シク赤發シ、浮腫狀ヲ呈シ、膿汁痂皮ニヨリテ粘著シ、其間ヨリ粘稠綠色ノ膿液湧出ス、時トシテ角膜ヲ犯シ其上皮剝脫若クハ溷濁ヲ來シ或ハ潰瘍ヲ生ジ加之穿孔シテ虹彩ノ脫出及其癒著ヲ將來スルカ、或ハ更ニ甚シキトキハ全眼球炎ヲ起スコトアリ。
豫後。輕症ナルハ一、二週乃至六、七週ニシテ治癒シ、結膜組織ノ變化全ク消退スベシト雖モ、其既ニ角膜ヲ侵セルモノハ失明ノ危險頗ル大ナリトス。

療法。豫防法ヲ以テ最モ緊要ナリトス、而シテ其方法ニ就キテハ既ニ分娩生理篇ニ於テ之ヲ説ケリ。(上卷三五七頁)

膿漏眼ノ初期ニ在リテハ專ラ冰罨法若クハ冷罨法ト分泌物淨洗トヲ以テ之ニ當ルベシ、而シテ一眼ノミ侵サレタルトキハ防護繙帶ヲ以テ他眼ヲ閉鎖スベキモ、之ヲ行ヒ難キトキハ防腐洗滌ヲ施シ、時々二%硝酸銀水ヲ點眼シテ之ニ備フベシ、既ニシテ腫脹稍々消散シ主トシテ膿汁分泌ヲ見ルニ至レバ先ヅ硼酸水若クハ一―二%石炭酸水ヲ以テ之ヲ洗滌シ而シテ後二―四%硝酸銀水ヲ塗布シ次デ食鹽水ヲ以テ之ヲ洗滌シ、冷罨法ヲ持續スベシ、斯クテ膿腫減少スレバ一%溶液ノ點眼ニ留メ更ニ良好ニ向ヘバ皓礬水ヲ以テ足レリトス。

已ニ角膜炎ヲ併發セルトキハ〇.五%アトロピン若クハエゼリン溶液ヲ點眼スベシ。

第六 初生兒敗血性傳染 Sepsische Infektion der Neugeborenen.

本症ハ臍部其他創傷面ニ接觸セル不潔ナル手指、繙帶若クハ器具等ヲ介シテ病菌ノ竄入スルニ因ルモノニシテ、或ハ局所症狀ヲ惹起スルニ留マリ、或ハ重篤ナル全身症狀ヲ來ス、而シテ其侵入門ハ多ク臍帶附著部ナリトス。

甲局處性傳染疾患 Local Infection.

一 臍壞疽 Gangraena umbilici.

臍帶限界部皮膚發炎シテ潮紅腫脹シ、臍帶殘痕肥厚濕潤シテ暗黒色ヲ呈シ、強烈ナル惡臭ヲ放チ、往々化膿ニ陥ルコトアリ。

療法。三%硼酸水ヲ以テ頻回洗淨シ、局所ニ沃度仿謨、キセロフォルム、過滿俺酸加里格魯水、樟腦、石炭酸撒里矢兒酸等ヲ用ヒ、防腐繃帶ヲ施シ、同時ニ榮養増進ヲ圖リ、衰弱甚シケレバ心臟機能ヲ考察シ要ニ應ジテ麝香、依的兒、カンフェル、赤酒、礮砂加アニース精等ノ興奮劑ヲ投ズベシ。

(1) 撒里矢兒酸 五.〇
澱粉 一〇.〇

右外用。

(2) 過滿俺酸加里 〇.六一—一.〇
餾水 五〇〇.〇

右外用。

(3) 樟腦 二.〇
酒精 少量

餾水 一〇〇.〇

右外用。

(4) 石炭酸 一.〇—一.五
餾水 一〇〇.〇

右外用。

二 臍炎 Omphalitis.

臍帶脫落後兩三日ニシテ發スル臍及其周圍皮下結締織ノ炎症ニシテ局部著シク腫脹シ、皮膚發赤スルコト甚シ。

療法。臍部ノ清潔法ニ注意シ沃度仿謨、テルマトール、アイロール、キセロフォルム等ヲ撒布シ、或ハ防腐溶液ヲ以テ溫罨法ヲ施スベシ、炎症劇増シ化膿ノ兆アルトキハ、溫罨法ヲ以テ之ニ應ジ、波動ヲ呈スルニ至レバ消毒法嚴行ノ下ニ切開ヲ施スベシ、又ロイコフエルマンチンニヨリテ能ク奏效ヲ見ルコトアリ、其他消化器機能ニ留意シ、便通ノ遲滯ナカラシメンコトヲ要ス。

三 臍膿漏 Blennorrhoea umbilici.

臍帶脫落後敢テ證スベキノ炎症若クハ周圍ノ硬結ヲ認メズ、單ニ臍底少シク充血腫脹シテ久シク膿汁ヲ排泄スルモノヲイフ。

療法。膿汁ヲ淨拭セル後沃度仿謨、亞鉛華、テルマトール、アイロール、硼酸等ヲ用ヒ、或ハ一—二%硝酸銀ニヨリテ卓效ヲ見ルコトアリ。

四 臍血管炎 Arteritis et Phlebitis umbilicalis.

動脈炎ヲ多シトス、初メ病菌臍帶斷端ヨリ動脈又ハ靜脈管ニ沿フテ臍帶結締織内ヲ進入シ、次デ腹腔内血管殊ニ臍ヨリ膀胱ニ至ル部分ニ蔓延シテ血管肥厚ヲ來シ、腹膜下結締織

及腸骨動脈ニモ亦波及シ爲メニ下肢ノ血行障礙ニ因スル浮腫ヲ發スルニ至ルコトアリ。或ハ膿毒症ヲ來シ、腹膜炎、肺炎、肝、腎、脾臟等ノ腫脹軟化、關節炎等ヲ併發シテ死ニ陥ルコトアリ。或ハ臍周圍ニ丹毒ヲ生ジ、次デ腹壁ノ壞死ヲ起スコトアリ。

症候。當初甚ダ著シカラズト雖モ須臾ニシテ臍輪發赤シ、血管經路ニ隨テ皮膚隆起シ、耻骨或ハ肋骨ニ臻ルヲ認メ、著明ノ黃疸ヲ伴ヒ、同時ニ發熱ヲ來シ、患兒不穩トナリ、其兩脚ヲ下腹ニ向テ牽縮シ、多クハ搖擗ヲ發シテ仆ル。

療法。臍トシテ之ガ豫防法ニ昂ムベク、臍帶斷痕ハ可及的乾燥清潔ナラシメ、防腐繃帶ヲ嚴ニシ、臍部創傷化膿等ヲ生ズレバ撒里矢兒酸、硼酸若クハ沃度仿謨等ニヨリテ速ニ之ヲ治スベシ、既ニ膿毒症ヲ來セバコルラルゴール等ヲ應用スベシト雖モ多クハ效ナシトス。

五 臍息肉 *Fungus umbilici, Granulom des Nabels.*

臍帶脫落ノ跡ヨリ生ズル豌豆大鮮紅色ノ肉芽組織ニシテ有莖ナルアリ、否ラザルアリ、其根部ニ稀薄ナル膿汁ヲ分泌ス、主トシテ圓形細胞及ビ細胞間結締織ヨリナリ、稀ニ滑平筋纖維及ビ管狀腺ヲ含有ス。

療法。本症ハ無害ニシテ全身症ヲ惹起スルコトナク、時トシテ自然治癒ヲ見ルコトアリト雖モ、頗ル長時間ヲ要スルヲ以テ宜シク絲ヲ以テ其莖ヲ緊紮シテ之ヲ切除シ、又ハ硝酸銀若クハ發烟硝酸ヲ以テ腐蝕シ、其創面ニハ硼酸撒里矢兒酸沃度仿謨、アイロール、イトロール等ヲ用ヒ繃帶ヲ施スベシ。

乙 全身性傳染疾患 *Allgemeine Infection.*

生後幾計モナクシテ來ルコトアリ、或ハ一兩日ヲ經テ發スルコトアリ、體溫三九—四〇度ニ昇騰シ、脈搏頻速トナリ、呼吸促進シ、皮膚ハ汚穢灰白黃色ヲ呈シ、血液嘔吐、皮下溢血等ヲ來シ、敗血性胃腸炎ニ因スル下痢ヲ起シ、腎臟炎、腹膜炎、肋膜炎、肺炎、關節炎、神經症狀等ヲ發シ、一兩日ニシテ已ニ夙ク虛脱ニ陥ルヲ常トス、或ハ又熱發ヲ伴フコトナク、衰弱體溫低下、食欲不振、下痢等ニ次デ卒然虛脱症ニ陥リテ死亡スルモノアリ、或ハ純然タル膿毒症狀ヲ以テ數週間ヲ經過シテ遂ニ死ニ歸スルモノアリ。

療法。豫防方法固ヨリ緊要ナリ、已ニ本症ヲ發スレバ、其主徵ニ從ヒテ處置スベシ、而シテ若シ高熱持續スルトキハ規尼涅撒里矢兒酸曹達安知必林、安息香酸曹達若クハ水治法ヲ選用スベシ、而シテ血清療法ハ其效確實ナラズ。

(1) 硫酸規尼涅

〇.五

覆盆子舍利別

一〇〇

縮水

五〇〇

右每二時一茶匙宛

(2) 安知必林

〇.五

單舍利別

一〇〇

縮水

五〇〇

右同上

(3) 撒里矢兒酸曹達

單舍利別

備水

右同上

(4) 安息香酸曹達

單舍利別

備水

右同上

Handwritten notes in Japanese, including '初生兒丹毒' and 'Erysipelas neonatorum'.

第七 初生兒丹毒

Erysipelas neonatorum

グッセロー、フエーリング Gussenow, Felling 氏等ニヨレバ初生兒ハ丹毒ニ對スル感受性大ナルガ如シ、而シテヘーノッホ Henoch 氏ニ從ヘバ初生兒丹毒ハ之ヲ產褥性ト外傷性トノ二者ニ分ツヲ得ベシトイフ。

一 產褥性丹毒 *Puerperaler Erysipelas*

母體產褥熱ヲ患フル初生兒ニ來ルモノニシテ、丹毒ノ諸徴ニ兼テ四一度以上ノ高熱ヲ發シ、黃疸、嘔吐、下痢、肋膜炎、腹膜炎等ヲ併發シ、夙ク已ニ虛脱ニ陥リ、播病ヲ起シ昏睡ニ由リテ

死地ニ就クモノナリ。

二 外傷性丹毒 *Traumatischer Erysipelas*

毫モ母體產褥熱ノ有無ニ關スルコトナク、寧ロ兒體ノ外傷ヨリ發生スルモノニシテ殊ニ臍部創傷ヨリシ、其他生殖器及ビ肛門ヨリ侵入ス、蔓延極メテ迅速ニシテ患部皮膚ハ赤色乃至暗赤色ヲ呈シ、浮腫狀ニ腫脹シテ光澤ヲ有シ、指壓ニヨリテ僅ニ殘窩ヲ留ム、又黃色漿液ヲ藏スル散在性水泡ヲ發生ス、弛張性高熱三九—四一度持續シ、脈搏頻速(一六〇—一七〇)細小トナリ、呼吸淺速シ、多クハ哺乳ヲ嫌厭ス、頑固ナル下痢、肺炎、腹膜炎等ヲ發シテ仆ルニ至ル。

豫後。概ネ不良ナリ、然レドモ決シテ治療ノ望ヲ絶ツベカラズ何トナレバ初生兒ハヨク一週日以上ノ丹毒ニ堪ヘ、全治スルコトアルヲ以テナリ、然レドモ幸ニ丹毒ヲ經過スルモ繼發セル皮膚膿腫或ハ壞疽ニヨリテ死亡スルコトアルモノナリ。

療法。未ダ確效ヲ奏スルモノヲ得ズ、局處ニ沃度仿謨末ヲ散布シ或ハ二—三%石炭酸虞里設林溶液若クハ的列竝油、沃度丁幾、虞里設林混合液(二：一：五ノ割合ヲ塗布シ或ハ〇、〇五昇汞水、器法、レゾルチン軟膏、レゾルチン五、〇、豚脂ヲノリン各一〇、〇ヲ軟膏トナシ患部ニ塗擦ス)一〇%イヒチオール軟膏等ヲ用ヒ又ハ五%トリクロール、フエノール、虞里設林溶液若クハ硼酸溶液等モ亦試ムベシ、患部ニ近接シタル健康部内ニ一—二%石炭酸水ヲ注入スルモノアレドモ其奏效確實ナラザルノミナラズ中毒ヲ來スノ恐アリトス。

内服藥トシテハ單ニ對症的ニ之ヲ與フルニ過ギズ、即チ赤酒依的兒、コンニヤク等ノ興奮劑ヲ投ジ、以テ體力維持ニ勉メ、便秘アレバ下劑ニ藉リテ腸管ニ誘導スルガ如キ是レナリ。

第八 初生兒牙關緊急及破傷風

Tismus et Tetanus neonatorum.

土地表層ニ生存スル破傷風菌ノ傳染ニ起因スルモノニシテ汚穢ナル衣服、住屋、不純ノ空氣、寒暖不定ノ氣候、殊ニ不潔繻帶等ハ凡テ本症發生ノ誘因トナルモノニシテ其侵入門ハ多クハ臍部ナルガ如シ。

症候。概ネ生後第五乃至第九日即チ臍帶脱落ノ時期ニ發シ、初メ不穩ノ狀ヲ呈シ、荐リニ號叫シ、漸次哺乳困難ヲ來シ、環口筋及咀嚼筋ニ輕微ノ痙攣ヲ發シ、上下兩唇互ニ壓抵シテ開口困難トナル、而シテ初メ專ラ哺乳動作ニヨリテノミ誘發セラル、モノナレドモ、終ニハ隨時發作スルニ至リ、且ツ顔面諸筋モ亦之ニ與カリ、久シカラズシテ全身諸筋ニ及ボシ、後弓反張ヲ來シ、嚔下不能ニ陥リ、體溫四一—四二度ニ達シ稀ニ平溫ニ留マルモノアリ、脈搏頻數トナリ、呼吸促進シ、ちあの—セヲ來シ、終ニ衰弱若クハ窒息ニヨリテ大抵一乃至九日ニシテ死ス。

假性破傷風 *Pseudotetanus* ト稱スルハ腦或ハ脊髓損傷ニヨリテ破傷風様發作ヲ起スモノヲイフ、多クハ幾計モナクシテ麻痺症狀ヲ繼發スルヲ以テ鑑別シ得ベシ、且ツ其痙攣強直性ナラズシテ間代性ナリ、其他分娩經過難産、狹窄骨盤、人工分娩モ亦診斷ノ資トナルコトヲ期スベシ。

ルコト多シトス。

療法。豫防法トシテハ凡テ兒體ニ近接スベキ衣類及ビ器具等ノ清潔法ニ注意シ、臍帶ハ防腐的ニ處置シ、居室ハ可及的ニ一定ノ溫度ヲ保タシメ、浴場ノ溫度モ亦冷熱ニ失セザランコトヲ期スベシ。
已ニ發病セルモノニ在リテハ破傷風菌血清ヲ用フベシト雖モ奏效確實ナルヲ得ズ、故ニ通例麻醉劑ニヨリテ發作制限ニ努メ、兼テ乳汁、肉汁、ペプトン等ノ灌腸ヲ施シテ體力維持ヲ圖ルベシ。

(1) 臭剝

〇.五

單舍利別

四〇

縮水

二〇〇

右十一—十五回分、一時間毎ニ一回服用。

(2) 抱水格魯拉兒

一〇

單舍利別

六〇

縮水

五〇〇

右每一時一茶匙宛奏效スル迄連用。

(3) 抱水格魯拉兒

〇一—〇.五

縮水

二〇〇

右一回灌腸量。

第九 初生兒乳腺炎

六〇〇

(4) 單阿片丁幾

每二時一滴宛

(5) 硫酸亞篤魯比涅

餾水

右一箇宛皮下注射

(6) クラール

餾水

右同上

(7) 撒里矢兒酸フゾステグミン

餾水

右同上

(8) 呀囉仿謨

右吸入料

第九 初生兒乳腺炎

Mastitis neonatorum.

初生兒ハ男女ヲ問ハズ、榮養ノ良否ヲ論ゼズ、生後第三乃至第四日ニシテ乳腺ノ腫脹ヲ來スヲ常トシ、通例輕微ニシテ三四日ヲ經レバ自ラ消退スルモノナリト雖モ、時トシテ胡桃大トナリ、疼痛ヲ來シ且ツ初乳様白色液汁所謂魔乳 Hexenmilch ヲ壓出セシムルヲ得ルコ

トアリ、此分泌液ハカゼイン、蛋白質、糖分、鹽類、脂肪、初乳球等ヲ含有ス、腫脹及ビ分泌ハ兩三週ニシテ休止スルヲ常トスレドモ、更ニ持續スルモノモ亦屢々ナリ、甚ダ稀ニハ化膿ニ陥リテ穿潰シ、蜂窩織炎及ビ敗血症ヲ誘發スルコトアリ。

療法 初期ニ在リテハ消毒綿花ヲ以テ乳腺ヲ被覆シ、或ハ華攝林、硼酸軟膏等ヲ塗布ス、近來ビール氏鬱血療法ヲ推奨スルモノアリ、患部發赤シテ化膿ノ徵ヲ示ストキハ溫罌法ニヨリテ之ヲ促進シ、乳嘴ノ損傷ヲ警メツ、之ニ切開ヲ加ヘ、〇・五%クレオリン水ヲ以テ腔内ヲ洗滌シ輕キ壓迫繃帶ヲ施スベシ。

第十 臍出血

Omphalorrhagia, Nabelblutung.

臍出血ハ諸般ノ病的徵候トシテ出現シ來ルモノニシテ輕重二種アリ。

(一) 輕症ナルハ臍帶結紮ノ不全ナルニ因リ、或ハ假死狀態ニ於テ娩出シタルモノ、若クハ虛弱ナルモノニ於テ娩出後充分ナル血管收縮ヲ爲サザルト、活潑ナル呼吸作用ヲ營マザルトニ由リ、或ハ臍帶血管ノ碎脆性ナルニヨリテ來ル故ニ更ニ結紮ヲ新ニシ、繃帶ヲ施セバ敢テ危險ナシトス。

(二) 重症ナルハ所謂特發性臍出血 Idiopathische Nabelblutung ト稱スルモノニシテ生後第五乃至第七日ノ間ニ起リ、毫モ徵スベキ局處の原因ナクシテ絶ヘズ出血シ、百方之ガ止血ニ昂ムルモ其效ナク、爲ニ急性貧血ヲ起シ、加フルニ胃腸出血、黃疸、皮膚溢血、浮腫等ヲ併發シ、

大多數者ハ死ヲ免ル、能ハザルモノナリ。
 本症ノ原因今尙ホ不明ニ屬スト雖モ恐クハ先天性微毒、腐敗性傳染遺傳性血友病急性性脂肪變性及ビ血色素尿等ト多少ノ關係ヲ有スルモノナルベシ、而シテ其剖檢の所見ハ肝臟ノ脂肪變性、脾臟肥大等ナリトス、ウヰンケル氏ニヨレバ五〇〇〇人ノ初生兒中之ヲ見ルコト僅ニ一例ニ過ギザリシトイフ。
 療法。多クハ無效ナリトス、過格魯兒鐵液ノ外用、壓迫繃帶、持久指壓、全臍輪結紮法等ヲ施シ、兼テ兒體榮養ノ保持ニ勉ムベシ、其他アドレナリン、ゲラチン等ノ注射モ亦試ムベシトス。

第十一 臍歌爾尼亞

Hernia umbilicalis, Exomphalus,

Omphalocele, Nabelbruch.

臍歌爾尼亞トハ臍輪ヨリ内臟ノ一部脱出セルモノヲイヒ、之ヲ分チテ先天性及ビ後天性ノ二種トナス。

(一) 先天性臍歌爾尼亞 *Angeborener Nabelbruch* ハ分娩時既ニ臍帶内ニ腹腔内臟ノ脱出セルモノニシテ、其内容ハ殆ンド常ニ大網膜及腸管ナリト雖モ時トシテ肝、胃、腎、脾、膀胱、卵巢、子宮等ナルコトアリ、此ノ如キハ生後直チニ死亡スルヲ常トス。

療法。小ナルモノニアリテハ其内容ヲ復納シテ臍帶ヲ結紮シ、其全治スルニ至ルマデ紮

創膏繃帶ヲ纏絡シ、或ハ臍歌爾尼亞帶ヲ持續應用スベシ、若シ腸管ヲ整復スルコトナクシテ臍帶ト共ニ結紮スルトキハ臍尿管ヲ胎スニ至ルベシ、而シテ整復不能ナルモノニアリテハ手術的療法ニ頼ラザルベカラズ。

圖 二 十 五 百 第



先天性臍歌爾尼亞
 (明治三十九年三月
 一日分曉東京醫科
 大學產科婦人科學
 教室所藏)

(二) 後天性臍歌爾尼亞 *Erworbener Nabelbruch* ハ生後六ヶ月以内ニ發生スルモノ最モ多ク、啼泣、咳嗽、嘔吐ニ因スル腹壓増加ニヨリテ誘發セラレ、殊ニ孱弱ナルモノニ於テ然リトス。臍ハ楔狀若クハ球形ヲナシテ突出シ、臍歌爾尼亞門ハ廣狹一ナラズト雖モ概シテ復納容易

ナリトス。
療法。可及的早期ニ之ヲ復納シ、絆創膏繃帶ヲ施シ、壓定帶ヲ持續纏絡セシムベシ、若シ内容ト歇爾尼亞門ト癒著セルトキハ手術ヲ行ハザルベカラズ。

第十一 頭蓋血腫 *Kephalhaematom, Kopflutgeschwulst.*

原因。頭蓋骨ト其骨膜トノ間ニ生ゼル溢血ニシテ、當該部分ノ血管破裂シ易キト、骨膜ノ移動シ易キトニヨリテ生ズルモノニシテ、分娩時兒頭高度ノ充血、壓迫、移動及屈曲等ハ之ガ誘因トナルモノナリ、而シテ胎兒位置ニ關スルコト而ク深カラザルガ如シ即チ骨盤端位及斜位ニ來ルコトアルニ見テ知ルベシ、然レドモ鉗子遂婉、狹窄骨盤等兒頭壓迫ヲ蒙ルコト大ナルモノニ於テ發スルコト多キハ爭フベカラズトス、其他窒息ニ因スル血行障害モ亦血腫生成ヲ容易ナラシムルモノナリ。

症候。分娩後兩三日ニシテ現ハレ、頭蓋外面即チ帽腱膜下ニ來ルモノ即(一)外頭蓋血腫、*Kephalhaematoma externum* ト内面即チ硬腦膜下ニ生ズルモノ即(二)内頭蓋血腫、*Kephalhaematoma internum* トアリ、前者ハ吾人ノ最モ屢々見ル所ニシテ著明ナル波動ヲ呈シ、其形狀圓形、橢圓形或ハ腎臟形ヲナシ、大小一ナラズト雖モ、凡テ骨縁縫合或ハ顛門ヲ越テ他骨ニ移行スルコトナシ、且ツ同時ニ二個以上ヲ生ズル場合ニ於テモ互ニ交通スルコトナシ、通例顛頂骨後上角ニ生ズト雖モ稀ニ後頭骨、顛顛骨若クハ前頭骨ニ來ルコトアリ、局處ノ皮膚

外頭蓋血腫
内頭蓋血腫

ハ變色ヲ呈セザルヲ常トシ、強ク緊張シ、一兩日ニシテ反應性骨膜炎ニ因スル化骨ニヨリテ血腫周圍ニ硬固ノ牆壁様隆起ヲ生ズ、タメニ頭蓋骨々傷若クハ腦歇爾尼亞ト誤認スルコトアリ、産後第六―第八日ニ至ルマデ徐々ニ増大シ、一乃至三週間其狀態ヲ維持シ、次第縮小ニ傾キ波動消失シ四―六週ニシテ自ら吸收セラレ、ヲ常トス、血腫ハ壓痛ヲ覺エズ、且ツ全身症狀ヲ伴フコトナシ、故ニ之ヲ發セバ血腫化膿若クハ内頭蓋血腫ノ存在ヲ疑ハザルベカラズ。

類症鑑別。

(一)產瘤。(1)發生遲キコト、產瘤ハ分娩時ニ發生スルモノナルヲ以テ分娩直後ニ之レヲ認ムルモ、血腫ハ分娩後兩三日ニシテ初メテ現ハル、(2)產瘤ハ分娩後兩三日ヲ經レバ消失スルモノナレドモ、血腫ハ分娩後數日間ハ却テ少シク増大ス、(3)產瘤ハ結締織内ノ血性漿液性浸潤ニヨル腫脹ナルヲ以テ波動ヲ呈スルコトナキモ、血腫ハ頭蓋骨ト骨膜トノ間ニ生ゼル溢血ナルヲ以テ著明ナル波動ヲ呈ス、(4)產瘤ハ前述ノ理ニヨリ一骨ニ限局セズ、縫合、顛門ヲ越エテ他ニ波及スルモ、血腫ハ一骨上ニ限局シ、且ツ其周圍ニ骨堤ヲ有ス、(5)產瘤上ノ皮膚ハ移動セザルモ、血腫上ノ皮膚ハ菲薄ニシテ容易ニ移動ス。

(二)腦歇爾尼亞。ハ多クハ他ノ腦症狀ヲ伴フモノニシテ、然ラザルモノ之レヲ壓迫スル時ハ必ズ腦症ヲ起スモノナリ。

(三)血管腫。ハ其色藍色ニシテ、硬度柔軟ニシテ壓迫シ得可ク、且ツ邊緣隆起ヲ見ズ。

(四)膿腫。ハ炎症性ナルヲ以テ潮江、疼痛及發熱ヲ伴フモ、血腫ニ於テハ此等症狀ヲ缺除ス。療法。兒體ニ對シ殆ンド全ク無害ナルノミナラズ、終ニハ自ラ吸收セラレ、モノナルヲ以テ之ガ特殊ノ療法ヲ要セズト雖モ、其菲薄ナル皮膚ヲ通ジテ病菌竄入スルノ虞アルヲ以テ、局處ヲ清潔ニシ、乾燥滅菌綿花ヲ以テ之ヲ庇護シ、且ツ輕ク壓迫シテ其吸收ヲ促スベク或ハ硼酸水ヲ以テ罌法ヲ施スモ可ナリ、反之濫リニ穿刺又ハ切開ヲ施スハ反テ化膿ヲ誘起スル恐レアルヲ以テ禁忌トス、然リト雖モ其久シキニ亘リテ毫モ消退セズ、皮膚益菲薄トナリ、當ニ破潰セントスルトキハ嚴重ナル消毒法ノ下ニ穿刺若クハ切開ヲ行ヒ、撒酸綿ノ壓抵縛帶ヲ施ストキハ速ニ治癒スベシ (Winkel) 又已ニ化膿ノ徵ヲ呈スルニ至レバ最低部ニ切開ヲ加ヘ、膿汁ヲ泄除シ、排膿裝置、防腐縛帶ヲ施スベシ。

第十三 胸鎖乳頭筋血腫

Haematom des Sternocleidomastoideus.

分娩時胸鎖乳頭筋ヲ損傷シ溢血ヲ來スニヨリテ起ルモノニシテ被囊性筋炎ヲ發シ、次第ニ結締織硬結ニ變ジ、圓形或ハ長圓形ヲ呈シ、其大サ鳩卵大ヲ越ユルコトナシ、主トシテ右側ニ來リ兩側ニ發スルハ極メテ稀ナリ、多クハ胸鎖乳頭筋ノ上半部ニ來ルモノニシテ將來斜頸 Schiefhals ノ原因ヲナスコトアリトス。

療法。多クハ自ラ治癒スルモノニシテ敢テ治療ヲ要セズト雖モ、頭蓋血腫ニ於ケルト同様に治癒スレバ其吸收ヲ促進シ得ベシトス、殊ニ沃度加里軟膏ノ塗擦推奨セラレ。

沃度加里

1.0

縮水

1.0

巴拉賓軟膏

1.70

右軟膏ヲ作り患部ニ塗擦ス。

第十四 末梢神經麻痺

Peripherische Lähmungen.

一 顔面神經麻痺

Facialislähmung.

偏側顔面神經麻痺ハ鉗子、遂婉、ノ後ニ見ルコト最モ多シ、是レ鉗子尖端ヲ以テ顔面神經幹ヲ壓迫スルニ因ルモノナリ、患側ニ於テ眼裂全ク閉鎖セズ、口角下方ニ牽引セラレ、殊ニ啼泣時ニ著シトス、多クハ三―六日ニシテ自ラ治癒ス、時トシテ自然分娩後ニ來ルコトアリ恐クハ中樞性ノモノナルベシ。

二 撓骨尺骨及腓骨神經麻痺

Radialis-, Ulnaris- und Peroneuslähmung.

骨盤端位挽出術後ニ來ルコト最モ多シ、又鉗子ニヨリテ腓骨神經幹ヲ壓迫シ爲ニ其麻痺ヲ來スコトアリ、多クハ久シカラズシテ自ラ治癒スルモノナリト雖モ、電氣、按摩法等ノ應用ヲ必用トスルコト屢々ナリ。

第十五 初生兒黃疸

Icterus neonatorum.

既ニ生理篇ニ於テ述べタルガ如ク(上卷四〇五頁)初生兒ハ其七五―八〇%ニ於テ生後第

二乃至第三日ニシテ黄疸ヲ來シ、毫モ他ノ障害ヲ伴フコトナク、多クハ三―四日ニシテ自
ラ消退スルモノニシテ深ク留意スルニ足ラズ、然レドモ時トシテ重症黄疸、Icterus Gravisナ
ルモノアリ、胸腹部、顔面、四肢等全身ノ皮膚悉ク侵サレ、次デ結膜ニ來ル(或ハ缺如スルコト
アリ)是レ初生兒ノ所謂生理的黄疸及大人黄疸ト異ナル所ナリ、而シテ常ニ全身障碍ヲ伴
ヒ、屢々死亡ニ終ル、此際尿ハ暗褐色ヲ呈シ膽色素ヲ證明シ得ベシ。

原因。重症黄疸ノ原因トシテバイシユ Raisch 氏ハ左ノ八因ヲ擧ゲタリ、即(1)輸膽管ノ異
常例之先天性狭窄及閉塞、(2)先天性梅毒、(3)傳染病、(4)初生兒腐血症又膿毒症、(5)不明ナル傳
染性ノ疾患、例之ブール氏病、ウァンケル氏病等ノ如キ、(6)中毒症、(7)加多留性黄疸、(8)頭蓋内出
血。

療法。輕症ニアリテハ敢テ治療ヲ要セズ、只看護ヲ怠ラザルヲ以テ足レリトス、輸膽管ノ
先天性狭窄又ハ閉鎖、先天性肝臟微毒、初生兒膿毒症等ニ起因スルモノハ各之ニ從テ處置
セザルベカラズ、又便秘ヲ伴フモノハ緩下劑ヲ投ズルカ、若クハ灌腸ヲ施スベシ。

第十六 初生兒メレナ(黒吐病)

Melaena neonatorum.

原因。諸説紛々トシテ今尙ホ歸一スル所ナシ、ゲルトネル氏 Guertner ハ一種ノ細菌ニヨ
リテ起ル傳染病ナリトナシ、ボモルスキー、プロユシエン Pomorski, Treuschen 諸氏ハ之ヲ以
テ腦質ノ損傷ニヨルモノトナシ、ランデレル氏 Landerer ハ父母若クハ祖父母ノ血友病ト

關係アリト稱セリ、又ビルラード氏 Billard ハ生活第一日ニ於テ消化器粘膜炎ハ常ニ充血ス
ルモノニシテ殊ニ假死肺膨脹不全、先天性心臟畸形等靜脈循環障碍セラル、モノニ於テ
出血ヲ來シ易シトセリ、フオーゲル、ハッケル、ブール Vogel, Hecker, Buhl 諸氏ハ胃腸粘膜炎存
スル圓形潰瘍ヲ以テ其原因トナシ、之ニ信憑スルモノ多シト雖モ潰瘍生成ニ關シテ諸説
又一致セズ、或ハ炎症ニヨルトナシ(Bohn)或ハ小動脈ノ脂肪變性ニ歸シ(Rehn)或ハ小動
脈栓塞ニ因スル楔狀硬塞ニ基クトナセリ(Landau) 而シテ本症ハ一般ニ稀有ニシテ約〇、
一%ノ比ヲ以テ來ルモノナリト雖モ極メテ危険ナル初生兒疾患ナリトス。

症候。通例生後第二日(第一―第四日)ニシテ發シ、初メ鼻口ヨリ數回暗黒色ノ血液ヲ吐出
シ、次デ黒色ノ血便ヲ排泄スルニ至ル、或ハ又嘔吐ナクシテ水様若クハ凝固セル血便ヲ通
ズルモノアリ、而シテ多クハ他ニ異狀ヲ認メズ、二四乃至四八時間ニシテ全身著シク蒼白
色ヲ呈シ、體温平常以下ニ降り、四肢厥冷シ、冷汗ヲ發シ、呼吸淺表トナリ、脈搏極メテ微弱ニ
シテ觸知スルヲ得ズ、虚脱ノ狀ヲ呈シテ遂ニ死亡スルモノニシテ克ク五―十日ノ生命ヲ
保ツモノ甚ダ罕ナリ、加之數時間ニシテ此轉歸ヲ取ルモノアリ、其輕症ナルハ僅ニ兩三日
ニシテ止ミ、一時衰弱ニ陥ルモ須臾ニシテ回復スルモノナリ。

豫後。概シテ不良ニシテ少クトモ其半數ハ死亡ス、バイシユ氏 K. Raisch ノ統計ニヨレバ七
八%ノ死亡率ヲ示セリ。

療法。專ラ安靜ニ保護シ、腹部ニ冷罌法或ハ冰囊ヲ貼シ、同時ニ温ふらんねるヲ以テ上下

肢ヲ纏絡スベシ、又母乳ニ依ラザルモノニ在リテハ氷冷シタル乳汁ヲ與フルヲ可トス、ヘ
 ーノホ氏ハ冷乳ヲ稱用セリ、是レ母乳ニヨルトキハ多量ニ攝取シ胃ヲ膨滿セシムルノ恐
 アレバナリ。
 藥劑ニ就キテハカルナート氏 Carnat ノ推奨セシ膠液^{ゾラヂン}ノ應用最モ有效ナルガ如シ、即チ三
 一五%液ヲ直腸ニ注入シ、或ハ内服セシメ、若クハ一〇—一五立方仙迷ヲ一日一—二回皮
 下ニ注入ス、然レドモ膠液消毒ハ最モ完全ナルヲ要ス、否ラザレバ往々破傷風様症狀ヲ來
 スコトアリ、其他一半格魯兒鐵液、麥角、アドレナリン等モ亦使用セラル。

(1) 一半格魯兒鐵液

一〇

單舍利別

二〇〇

縮水

八〇〇

右混和毎二時一茶匙宛

(2) 水製麥角越幾斯

一〇

單舍利別

二〇〇

縮水

八〇〇

右混和同上

(3) アドレナリン

千倍液

内服ニハ 一日六一四〇滴

灌腸ニハ 一回六一—五滴

假性メレナハ既ニ前述セル所ニシテ往々本症ト誤ルコトアリ、之ト鑑別ヲ要ス。

第十七 急性脂肪變性症

Akute Fetidegeneration.

ブール氏病 Morbus Buhl.

分娩ノ際既ニ存シ、又ハ分娩後第一日ニ發スルモノニシテ肝細胞、心筋及全身横紋筋、肺氣
 胞腎臟上皮、腸絨毛等ニ著シキ脂肪變性ヲ來ス、一八六一年ブール氏初メテ之ヲ記載セリ、
 其原因ニ就キテハ諸説アルモ恐クハ敗血性傳染病ナルベシ。

症候。分娩ノ難易ニ關セズ、通常假死狀態ニ於テ娩出シ、人工呼吸ヲ行フモ其效ナキカ、或
 ハ克ク蘇生スルモ深呼吸ヲ營マズ、夙ク已ニ粘膜及皮膚ノちあの—せヲ來シ、多クハ死亡
 ス、幸ニ之ヲ經過スルモ胎糞排泄後下痢ヲ起シ、遂ニ血便ニ變ジ、吐血ヲ來シ、臍帶脱落後其
 基底ヨリ組織間出血ヲ起スコト多ク、同時ニ粘膜、皮膚ニ溢血ヲ生ジ、黃疸及浮腫之ニ加ハ
 リ、體溫上昇スルコトナク、遂ニ虚脱ニヨリテ死亡シ、其症狀窒息死或ハ磷中毒ニ類ス、而シ
 テ其豫後ハ絶對的不良ナリ。

療法。分娩後臍帶ノ處置ニ防腐法ヲ應用スルニ及ビ本症ノ發生減少スルニ至レリ故ニ
 豫防法ノ要アル知ルベキナリ。

出血ニ對シテハ初生兒メレナ及ビ臍出血ニ對スル治療法ヲ施シ、兼テ赤酒、依的兒、麝香確

砂加アニース精等ノ興奮劑ヲ與ヘ心臟力ヲ維持スベシト雖モ殆ンド效果ノ揚ルモノナシ。

第十八 急性血色素尿症

ウ、ンケル氏病

Akute Haemoglobinurie.
Morbus Winkeli.

原因。甚ダ稀有ナル急性疾患ニシテ其原因未ダ審カナラズト雖モ恐クハブール氏病ト同様ナルベシト稱セラル、而シテ大腸菌ヲ以テ病原菌トナスモノアリ、或ハ連鎖狀球菌ニヨルトナスモノアリ。

病理解剖。剖檢上全身ニ於ケル鬱血、黃疸、腎臟皮質ノ肥大、殆ンド凡テノ臟器ニ見ル出血、
バイエル腺及腸間膜腺ノ腫脹、肝臟ノ脂肪變性等ヲ認ム。

症候。生後第三乃至第四日ニシテ小兒不安ノ狀ヲ呈シ、全身著明ノちあのーせヲ來シ、黃疸ヲ發シ、時ニ吐乳シ、或ハ下痢ヲ起シ、呼吸促進シ、體溫上昇著シカラズ、或ハ全ク無熱ニ經過シ、同時ニ特殊ノ尿ヲ排泄ス、即チ淡褐色ニシテ血色素、顆粒圓塊、腎上皮細胞及ビ蛋白質ヲ含有ス、而シテ本症ニ在リテハ赤血球崩壊シ爲ニ血清赤色ヲ呈シ、白血球ハ却テ増加ス、血液甚ダ濃厚ニシテ刺傷スルモ出血ヲ見ズ。

豫後。豫後甚ダ不良ナリ、概ネ一兩日ニシテ昏睡、虛脱ニ陥リテ斃死ス。
療法。未ダ適當ナル治療法ヲ得ズ。

第十九 初生兒消化不良症

Dyspepsia neonatorum.

原因。初生兒殊ニ人工營養法ニヨルモノハ屢々消化障害ヲ來スコトアリ、夏季ニ於テ最も多シトス、而シテ不良ノ乳汁、不規則且ツ過量ノ哺乳、哺乳器ノ不完全ナル清潔法等之ガ直接原因ヲナシ、其他人乳ニ依ルモノト雖モ乳汁ノ不明異常、授乳者ノ疾病若クハ精神感動、神身ノ過勞、食物不足、月經、授乳法ノ拙劣等ニヨリテ來ルコトアリ、一般ニ早生兒、貧血、腺病質、佝僂病等ノ小兒ニ來ルコト多シトス。

症候。小兒不穩トナリ、食思減損ヲ示シ、乳汁ノ胃腸内ニ於ケル異常分解ニヨリテ腹部緊満シ、腸蠕動亢進ニヨリテ腹痛ヲ來シ、便通頻數トナリ、稀薄ニシテ綠色ヲ呈スルヲ常トス、縦令ヒ當初常色ヲ帶ブルモ之ヲ放置スレバ須臾ニシテ綠色トナルベシ、且ツ甚シキ酸臭ヲ放チ、刺戟性ヲ有スルヲ以テ大腿、陰部、會陰等ニ濕爛ヲ生ズルニ至ル、時トシテ甚ダ頑固ナル便秘ヲ來スコトアリ、體溫ハ其昇騰著シキモノアリ、或ハ却テ常溫以下ニ留マルモノアリ、病勢更ニ劇増スレバ便ハ多量ノ粘液ヲ混ゼル水様液トナリ、腹壁ヲ通ジテ腸ノ蠕動ヲ目睹シ得ベク、且ツ嘔吐頻リニ發シテ口渴、疲勞、羸瘦愈加ハリ、眼球上轉若クハ搖擗ヲ來シ、嗜眠狀態ニ陥リ時トシテ項部其ビ全身ニ硬變ヲ起スコトアリ、尿量減少著シク遂ニ無尿ニ至ルコトアリ。

豫後。豫後一般ニ不良ナリト雖モ病症ノ輕重治療法ノ適否、看護ノ善惡ニ關スルコト大

ナリ、下痢甚シク嘔吐亦頻發シ且ツ無尿症ヲ併發セルモノハ多クハ速ニ仆ル、ヲ常トス、幸ニシテ治ニ就ケバ體重ノ増加モ亦急速ニシテ其回復ノ迅カナルニ驚クコト屢々ナリトス。

療法。乳汁ノ性質、稀釋度、消毒法等ヲ檢シ、要ヲ認メナバ直チニ之ヲ改善スベシ、下痢アルトキハ餓餓療法ニヨリテ全ク腸管ヲ空虚ナラシメ安靜ニ保タシムヲ可トス、而シテ燕麥又ハ大麥煮汁ヲ以テ牛乳ヲ稀釋シ、且ツ授乳度數ヲ減ズルニヨリ克ク奏效スルコトアリ、或ハ人乳養育ヲ牛乳ニ變換シテ效アルコトアリ、牛乳營養ヲ「ネッスル小兒粉」「ミルクフード」等ノ人工製品ニ更メテ效果ヲ納ムルコトアリ。

嘔吐頻發シテ衰弱劇増スルトキハ生理的食鹽水ヲ以テ胃洗滌ヲ行ヒ、稀薄ナル粥汁、葛湯、滋養糖湯等ノ少量ヲ與ヘ以テ胃腸ノ安靜ヲ計リ、嘔吐止ムヲ待チテ少量ノ人乳若クハ稀釋牛乳ヲ與ヘ、逐次其量ト濃度トヲ増加セシムベシ、此際所謂脫脂乳稱揚セララル。

頑固ナル下痢ニ對シテ腸洗滌ヲ可トス、而シテ甘朮ノ適用ハ古今一貫今尙ホ減セズ、一日三乃至四回〇・〇三宛ヲ投ズベシ、三―四日ニシテ休ム、若シ之ヲ廢スルコト早キニ過グレバ其效ナシトス、又糞便多量ノ粘液ヲ混ジ、專ラ腸加答兒ノ微ヲ示ストキハイヒタルビン(一日三回〇・二宛)、次硝酸蒼鉛(每三―四時〇・五宛)等ヲ與ヘ、其他テルマトール、タンナルビン、タンニ―ゲン等モ亦試ムベシ、然レドモ初生兒ニ在リテハ破傷風ヲ除クノ外決シテ阿片劑ヲ使用スベカラズ。

第二十 初生兒脚氣

原因。脚氣患者ノ乳汁ニヨリテ養ハル、小兒ニノミ來ルモノニシテ、從テ大人脚氣ノ多キ期節ニ於テ發スルコト多シトス、時トシテ嬰兒ニ脚氣症狀アリテ而モ授乳者ニ之ヲ認メザルコトアリト雖モ、數日ニ亘リテ具ニ之ヲ檢スレバ多クハ其症狀ヲ發見シ得ルモノナリトス。

症候。或ハ急劇ニ發來シ、迅速ニ増進スルモノアリ、或ハ徐々ニ發生進行スルモノアリテ一定セズト雖モ、殆ンド凡テニ於テ先ヅ吐乳ヲ以テ起ル、而シテ其頻度モ亦固ヨリ不定ニシテ一日僅ニ一―二回ナルアリ、或ハ哺乳毎ニ反復スルアリ、漸ク不安トナリ、頻リニ啼泣シ、病機増進スルニ從テ失聲、呻吟、浮腫、呼吸促迫、心悸亢進ヲ來シ、膝蓋腱反射消失スルニ至ル、體溫上昇ハ當初ヨリ之ヲ見ルコトナク、偶々發スルアルモ高熱ノモノナシ、多クハ便秘ヲ來スモ又常規ヲ失セザルモノアリ、或ハ却テ下痢ヲ見ルモノアリ、尿量著シク減少シ、尿中インヂカンヲ證明シ得ルモ成人ニ於ケルガ如ク必發ノモノニアラズ、脈搏頻速軟小ニシテ鼻唇ノ周圍及ビ指趾等ニちあの―セヲ來シ、肺動脈第二音亢盛トナリ、股動脈、上搏動脈等ニ動脈雜音ヲ聽クニ至ル、本症經過中往々上眼瞼下垂、軟口蓋麻痺ヲ來シ、又強キ發作性號泣ヲ起スコトアリ、是レ恐クハ胸内苦悶ノ爲ナルベシ。

豫後。重症ニ陥リ心臟麻痺ヲ起スニ至レバ又救濟ノ望ナシト雖モ、早期ニ診斷シ離乳ヲ

敢行スレバ多クハ全治スルモノトス。

療法。離乳ヲ以テ唯一ノ治療法トス、其他ハ凡テ對症療法ニ過ギズ、即チ甘汞、醋剝、硝剝ノ如キ、下劑並ニ利尿劑ヲ投ジ、百布聖ヲ併用スベク、心臟ニ對シテハホフマン氏液、實艾答利斯チガーレン等ヲ處シ、心臟部ニ冰囊ヲ貼スベシ。

第二十一 初生兒鞏硬病

Sclerema neonatorum, Scleroedema neonatorum.

原因。早産兒、孱弱、營養不良等又父母ノ不攝生、虛弱等ハ本症ノ主因ヲナスモノニシテ、極メテ稀ニ見ルモノナリト雖モ危險ナル初生兒疾患ナリ、而シテ比較的男性兒ニ多ク、又寒冷濕潤セル季節ニ多シトス。

症候。本症ハ出生ノ日ヨリ起リ、皮膚緊張硬靱ヲ發シ、多クハ足部、下腿、腓腸等下肢ニ始マリ、漸次下腹、上肢終ニハ胸部及顔面ニ蔓延シ、皮膚ハ黃褐色ニ汚染シ、光澤ヲ有シ、同時ニ多少ノ浮腫ヲ來スモノアリ、四肢ハ輕度ノちあのーセヲ發シ、試ニ指頭ヲ以テ摘擧セントスルモ皮膚硬靱ニシテ皺襞ヲ作ラズ、之ヲ壓抵スルモ指痕ヲ留メズ、而シテ其硬度時ト共ニ増加シ、爲ニ四肢ノ運動自由ナラザルノミナラズ、全身強直シテ殆ンド死強ノ觀アリ、頬唇ノ鞏硬ニヨリテ哺乳モ亦著シク障礙セラル、體温ハ漸次沈降シ、甚シキハ攝氏三〇度ニ下ルコトアリ、脈搏弱小兒ハ當初ヨリ已ニ嗜眠ニ陥リ、時々幽微ノ聲ヲ發シテ啼泣スルニ過ギザルヲ常トス。

本症ハ屢々他ノ初生兒疾患例之黃疸、臍帶傳染等ニ併發スルコトアリ。

豫後。大抵三乃至五日ニシテ死ニ轉歸ス、時トシテ月餘ニ亘ルコトアリト雖モ衰弱若シクハ合併症ニヨリテ早晚死ヲ見ルモノナリトス。

療法。營養増進ヲ計リ、心臟維持ニ努メ、兒體保溫ヲ意トスベシ、即チ溫槽ニ入ル、カ、若クハ溫布ヲ纏絡シ、溫床ニ臥セシメ、時々「マッサージ」ヲ施シ、兼テ赤酒、依拉兒等ヲ與フベシ。

第二十二 先天性魚鱗癬 *Ichthyosis congenita.*

表皮稍著シク肥厚シ、帶黃灰白色角狀ヲ呈シ、恰モ甲裝シタルノ觀アリ、皮膚皺襞ノ存スル部分ニハ深キ陥入ヲ有シ、其基底深紅色ヲ呈ス、而シテ其體腔ニ移行スル部分例之口唇、眼險等ニ在リテハ粘膜ハ深紅色ノ厚キ隆起ヲナシテ突出シ、外貌醜惡ヲ極ム。

原因不明ニ屬ス、或ハ微毒ニ關係アリト稱セラル、此ノ如キ初生兒ハ曾テ其生命ヲ保持スルヲ得ズ速ニ死ニ歸スルヲ常トス。

療法。灰白水銀軟膏ノ塗擦ノ他施スベキモノナシ。

第二十三 初生兒天疱瘡 *Pemphigus neonatorum.*

天疱瘡ハ其形、位置、多少、及ビ内容等千差萬別ナリト雖モ之ヲ二種ニ大別スルヲ得ベシ。

一 單純性又急性天疱瘡 *Pemphigus simplex s. acutus.*

生後第二十四日ノ間ニ生ジ、豌豆大乃至鳩卵大ノ水泡ニシテ黄色ノ漿液ヲ含有シ、四肢及軀幹稀ニ顔面ニ生ズルモ手掌竝ニ足趾ヲ犯サルヲ例トス、通常紅暈ヲ有セズ、偶々之アルモ極メテ微弱ナリ、其發生スルヤ數個相聚ルモノアリ、或ハ散在性ナルアリ、而シテ多クハ多少ノ發熱ヲ伴フモノナリトス。

經過急速ニシテ皮疹ノ乾燥治癒スルハ大抵二週日ノ後ナリトス、而シテ快復期ニ於テ甚シキ癢痒ヲ發シ小兒不穩ノ狀ヲ來スト雖モ須臾ニシテ消退スルモノナリ。

原因今尙ホ明カナラズ、本症ヲ以テ傳染性疾患ナリトナスハ眞ニ庶キガ如シト雖モ未ダ其病原菌ヲ發見スルヲ得ズ。

療法 特殊ノ療法ヲ要セズ、單ニ亞鉛華澱粉ヲ撒布シ、又ハ二%醋酸礬土液ノ罨法ヲ行ヒ、或ハ糖浴ヲ施スヲ以テ足レリトス、又其内容ヲ排除シテ壓抵綿帶ヲ用フルモ可ナリ。

二惡液性又慢性天疱瘡 *Pemphigus cachecticus s. chronicus*.

時トシテ生後第一日加之分娩前已ニ發生スルコトアリト雖モ多クハ生後一二週ニシテ來リ、好デ鼻腔、液窩、鼠蹊等ニ發シ、殊ニ手掌及足趾ヲ侵スヲ以テ單純性天疱瘡ト異ナレリトス、且ツ其數モ亦一般ニ少ク、其大サ豌豆乃至大豆大ニシテ胡桃大ヲ超ユルコトナク、水泡多クハ弛緩シ、褐赤色著明ノ紅暈ヲ有シ、其内容ハ少シク溷濁シテ膿狀ヲ帶ビ或ハ血液狀ニ著色ス。

此種水泡ハ遺傳微毒ノ初徴トシテ發スルモノナルヲ以テ一ニ之ヲ微毒性天疱瘡 *Pemphigus*

gus syphiliticus ト稱ス、下卷二七頁參照)

豫後 豫後不良ニシテ殆ンド皆八—十四日ニシテ死ス、蓋シ多クハ體質虛弱ニ基クモノナリ。

療法 内用トシテ甘汞及沃土ヲ與ヘ、外用トシテ水銀軟膏ヲ塗擦シ、兼テ滋養強壯ノ方法ヲ講ズベシ(詳細ハ下卷二九頁參照)

第二十四 初生兒甲狀腺腫 *Struma neonatorum*.

甲狀腺肥大ニヨリテ強度ノ呼吸困難ヲ來シ、加之哺乳兒ノ頓死ヲ惹起スルコトアリ、是レ一ハ直接氣管ヲ壓迫スルニ因ルト雖モ、一ハ迷走神經及迴歸神經ノ刺戟ニ基クモノナリ、レオン及ベルグマン氏 *Rehn, Bergmann* ハ腫瘍ノ一部ヲ切除シテ良果ヲ得タリトイフ。

痙攣性陣痛	下三四	限局性痙攣陣痛	下三四	ぶらち挿入法	下三九	分娩	上二九
痙攣性陣痛微弱	下三三	附局性子宮弛緩症	下三三	副角ナ有スル單角子宮	下三三	分娩直後初生兒處置	上三三
頸管流産	下二五	限局性子宮周圍炎	下二五	腹帯	上三三	分娩中胎兒ノ早期呼吸	下四三
頸管裂傷	下四〇	現症	上〇八七	副胎盤	下三三	分娩豫定日計算法	上三三
頸管前置胎盤	下五九	劍狀突起癒合	上〇八三	副運動	上三三	分娩豫定日計算法	上三三
瘧疾	下五三	原始性脈絡膜	上二八三	腹腔妊娠	下三三	分娩第一期處置法	上三三
血友病	下五三	原精細胞	上二八	腹膜下血腫	下三三	分娩第二期處置法	上三三
グルトホルル氏脂肪乳	上四四	建設酵素	上八	腹膜異常	上三三	分娩第二期處置法	上三三
血胎	下二八	懸垂腹	上四三	腹膜過強	下三三	分娩第三期處置法	上三三
月經閉止	上二	ぶ	上四三	腹壓不全	下三三	分娩第三期處置法	上三三
月經ノ生理的意義	上三	フロコニコフ氏法	下四六	腹壓壓力	上三三	分娩ノ母體全身ニ及ボス影響	上三三
狹窄骨盤	上三	フロコニコフ氏法則	下四六	腹式帝王切開術	上三三	分娩ノ持續	上三三
血液性黃疸症	上四六	フロコニコフ氏法則	下四六	腐血症	上三三	分娩ノ胎兒ニ及ボス影響	上三三
血液疾患	上四六	フロコニコフ氏法則及羅格注	下四六	ブーテロツク氏徑線	上三三	分娩ノ種類	上三三
血狀鬼胎	下五三	腐敗熱	下五〇	浮球ノ感	上三三	分娩ノ生理	上三三
血漿性胎兒	下五三	腐敗菌	下五〇	婦人成熟期	上三三	分娩ノ挿入	上三三
血性惡露	上二二	腐敗性中毒	下五〇	不整形狹窄骨盤	下三三	分娩時ニ於ケル胎兒ノ位置	上三三
結節性脫落膜性子宮內膜炎	下五三	腐敗性流産	下五〇	不全中隔腫	上三三	分娩時ニ於ケル產道損傷	上三三
原發生陣痛微弱	下二八	腐敗性子宮內膜炎	下五〇	不全足位	上三三	分娩時母體ノ死亡	上三三
原發生腹腔妊娠	下三三	附著絨毛	上三三	不全胎位	上三三	分娩時母體ノ死亡	上三三
原發性子宮萎縮	下三三	不等性胸部癒合	下三三	不全子宮內膜炎	上三三	分娩時出血	上三三
肩胛位	下三三	不等透透液	下三三	不全前置胎盤	上三三	分娩時消毒法	上三三
肩胛位	下三三	フルル氏病	下三三	不全前置胎盤	上三三	分娩前驅期	上三三
肩胛位	下三三	葡萄狀鬼胎	下三三	剖核	上三三		
限局性妊娠後屈子宮	下三三	舞蹈病	下三三	剖核	上三三		
		ブラックストン、ヒックス氏法	下三三	剖核	上三三		

吻合神經枝
分裂骨盤
蕘地蓄積
分界線

吻合神經枝	上二八	骨盤端位	上二八	護製指蓋	上三三	會陰保護術	上三三
分裂骨盤	下三三	骨盤内計測法	上二八	護製性胎盤炎	上三三	會陰成形術	上三三
蕘地蓄積	下三三	骨盤ノ平行平面區分法	上二八	後頭頂位	上三三	瘻疽性子宮內膜炎	上三三
分界線	上四〇	骨盤外計測法	上二八	後頭位	上三三	葉間性肺炎	上三三
コーヘマン氏法	下二八	骨盤外斜徑	上二八	後頭下大頰門間距離	上三三	延滞破水	上三三
こるぼりんてる挿入法	下三三	骨盤腔	上二八	後陣痛	上三三	帝王切開術骨盤	上三三
コレレ及ボーム氏法則	下三三	骨盤關節損傷	上二八	後側門	上三三	帝答尼	上三三
五胎	下三三	骨盤計測法	上二八	後側門	上三三	調節素	上三三
虎列刺	下三三	骨盤傾斜	上二八	後不同高位	上三三	テアラライン氏消息子管	上三三
骨盤	上二二	骨盤狹部	上二八	後產	上三三	適合説	上三三
骨盤入口	上二二	骨盤腹膜炎	上二八	後天性膀胱腎尼亞	上三三	腎位	上三三
骨盤入口横徑	上二二	骨盤底	上二八	後產期	上三三	天泡瘡	上三三
骨盤入口斜徑	上二二	骨盤底ノ收縮	上二八	後產期陣痛	上三三	癩癩	上三三
骨盤入口前後徑	上二二	骨盤上口	上二八	後產期出血	上三三	腎斑	上三三
骨盤蜂窩織炎	上二二	骨盤周圍	上二八	固定陣痛	上三三	天然營養法	上三三
骨盤軸	上二二	骨盤出口	上二八	腰痛	上三三	腎部重複	上三三
骨盤輪張	上二二	コッヘル氏計測法	上二八	混合腎位	上三三	腎部癒合	上三三
骨盤橫隔膜	上二二	滑脱卵予	上二八	混合傳染	上三三	傳染性精神病	上三三
骨盤擴大術	上二二	骨軟化症性骨盤	上二八	「コンテンスミル」	上三三		
骨盤下口	上二二	骨部産道異常	上二八	榮養明黃	上三三		
骨盤下口計測	上二二	骨部産道損傷	上二八	榮養説	上三三		
骨盤第一斜徑	上二二	護製骨盤	上二八	會陰破裂	上三三		
骨盤第二斜徑	上二二	護製手袋	上二八				
骨盤端	上二二						

脈絡膜血腫	F 二六	自家傳染	F 四九	初生兒丹毒	F 五五	齒痛	F 二〇
ミユルレ氏輪	上三六	自家輸血法	F 四四	初生兒膿漏眼	上三七	濕爛	F 四九
ミユルレ氏兒頭壓入法	F 三四	子痲菌	F 四三	初生兒ノ呼吸	上四二	失產	上二〇
脂肪過多症	上八九	初乳	上三三	初生兒血液	F 六〇	濕疹	F 五
兒頭直徑	上四七	初乳球	上三二	初生兒檢査法	上三〇	周原性胎盤	F 一七
兒頭大橫徑	上元	處女膜痕	上九一	初生兒骨盤	上四〇	絨毛	上二八
兒頭大斜徑	上元	褥婦ノ早起	上四〇	初生兒胃盤	上四〇	絨毛間腔	上二六
兒頭大斜徑周圍	上元	食鹽水注入法	F 四九	初生兒五臟機能	上四六	絨毛膜	上三三
兒頭ノ偏在	上四	初生兒	上元	初生兒呼吸	上四二	斜位	上四三
兒頭ノ固定	上二六	初生兒胎萎縮	F 四九	初生兒營養法	上四〇	シャック氏熱濕布纏結法	F 三〇
兒頭徑線	上二九	初生兒敗血症傳染	F 五九	初生兒天疱瘡	F 六七	斜頸	F 四六
兒頭壓痕	上二九	初生兒破傷風	上三三	初生兒膿硬病	F 六六	紙樣胎兒	上三
兒頭周圍	F 二九	初生兒尿	上四八	初生兒腸肉	上四八	床脫落膜	上三
兒頭深在橫位	上四	初生兒乳房腫脹	上四〇	初生兒「メレナ」	F 六八	上下腎神經節	上三
兒頭小橫徑	上元	初生兒乳腺炎	F 六〇	初生兒腸搏	上四三	猩紅熱	上四
兒頭小斜徑	上四	初生兒黃疸	F 六〇	初生兒消化管	上四三	漿液性惡露	上四
兒頭小斜徑周圍	上四	初生兒胃腸氣	F 六二	初生兒神經系	上四二	靜脈炎	F 三
兒頭前後徑周圍	上元	初生兒牙關緊急	F 六九	初生兒表皮落屑	上四〇	常習性妊娠中絶	F 二
兒頭前後徑周圍	上元	初生兒甲狀腺腫	F 六九	初生兒全身性傳染疾患	F 五九	若年初產婦	上二
シルグエスタル氏法	F 四六	初生兒看護法	F 四六	四胎(要胎)	上二四	斜徑狹窄骨盤	F 二
自家中毒	F 四六	初生兒第一生活機能	上三三	孖胎	F 三三	尺骨神經麻痺	F 二
自家「ワクナン」	F 四三	初生兒體溫	上四二	兒體軀幹ノ過剩迴轉	上二九	瀉血法	F 二
				屍體分屍	F 四七	習慣性子宮弛緩症傾向	F 二
				尿位	上二二	自己娩出	F 二

自己迴轉	F 三七	子宮外膜炎	F 五〇	子宮筋腫	上八七	手指消毒法	上三三
子宮異常	F 三	子宮括約筋痙攣	F 三〇	子宮雀斑	上四	條帶骨盤	F 二六
子宮破裂	F 二九	子宮痙攣性狹窄	F 三〇	子宮周圍結締組織壓搾法	上四	受精丘	上三
子宮頸轉漏斗	F 三三	子宮頸部腫脹	F 三三	子宮靜脈炎	F 三三	受精セル卵ノ發育	上二
子宮頸脫出症	F 三三	子宮頸部神經節	上八	子宮疲勞	F 三三	純腎位	上二
子宮頸壓療法	F 三三	子宮血腫	上八	子宮全破裂	F 三三	準備陣痛	上二
子宮頸部痙攣性硬結	F 三三	子宮狹部	F 三三	子宮穿潰創傷	F 三三	純敗血症	F 三〇
子宮頸部硬結	F 三三	子宮腐敗	F 三三	子宮前屈前傾症	F 三三	矢狀縫合	上八
子宮頸部ノ消失	F 三三	子宮附屬器腫脹	F 三三	子宮弛緩	F 三三	噴狀骨盤	F 二八
子宮弛緩症	F 三三	子宮復舊不全症	F 三三	子宮不全破裂	F 三三	菲腫性脫落膜性子宮內膜炎	F 二八
子宮下重症	F 三三	子宮破裂	F 三三	授乳性子宮萎縮	F 三三	シモン、ルード氏徵候	F 二八
子宮痛腫	F 三三	子宮閉鎖	F 三三	授乳性精神病	F 三三	自然分娩	F 二八
子宮胎盤血管	F 三三	子宮後血腫	F 三三	シユルツエ氏胎盤剝離說	F 三三	自然的子宮破裂	F 二八
子宮脫出症	F 三三	子宮後後傾症	F 三三	シユルツエ氏胎盤剝離	F 三三	人爲的子宫破裂	F 二八
子宮損傷	F 三三	子宮口狹窄	F 三三	シユルツエ氏振搖法	F 三三	新妊娠線	F 二八
子宮內膿症	F 三三	子宮口癒着	F 三三	シユルツエ氏舌現象	F 三三	「ジンチ、オトキシン」	F 二八
子宮內容ノ重量	F 三三	子宮口全開大	F 三三	受胎	F 三三	「ジンチ、オリジン」	F 二八
子宮內壓	F 三三	子宮底壓療法	F 三三	受胎性傳染	F 三三	「ジンチ、ラム」細胞層	F 二八
子宮內洗滌法	F 三三	子宮壓傷	F 三三	受胎性微毒	F 三三	新陳代謝生産物中毒說	F 二八
子宮ノ極度縮小	F 三三	子宮創傷	F 三三	出血性胎盤滯留	F 三三	進行性惡性貧血	F 二八
子宮外妊娠	F 三三	子宮強直症	F 三三	縱徑狹窄漏斗骨盤	F 三三	靱帶間妊娠	F 二八
		子宮畸形	F 三三	主運動	F 三三	靱帶間血腫	F 二八
				收縮輪	F 三三	眞黃體	F 二八

毒麻疹	F 五	脾脫疽	F 六	正期產	上二四〇	脊椎樞重性骨盤	F 三三
真結合線	上二四四	泌乳機	上二四四	精絲	上七	石榴	F 二六
人工破水法	F 三六	疲勞性陣痛微弱	F 三三	精子ノ外遊走	F 六三	石榴石兒	F 二六
人工流產	下二八	「ピウレット」反應	上七六	生殖細胞	上七	石兒	F 二六
人工分娩	上二四一	皮膚筋炎	F 五三	生殖器異常	F 五九	纖維素醱酵素	F 四九
人工呼吸法	F 四八	皮膚疾患	F 四	生殖器復舊不全	F 五三	纖維息肉	F 四九
人工營養法	上四〇三	腓骨神經麻痺	F 六七	生殖器疾患	下五九	纖維素結節	F 二〇
人工的白血球増殖法	F 四〇一	ビーアルト氏乳脂混和汁	上四〇六	生殖器腫瘍	F 四四	前頭位	上二五三
人工早産法	F 五三	非穿孔性頸管裂傷	下四三	生殖器周圍腫瘍	F 四四	前頭頂位	上三九
深會陰破裂	F 四四	ビスカシエフク氏微候	上二	生殖器神經節	上八四	穿頭術	F 三〇
深在胎盤	F 四二	歇斯的里	F 四九	生殖器先天性畸形	F 四二	前頭位	上二五三
心臟瓣膜病	F 四二	ビスカシエフク氏微候	上二	正常位置ニ於ケル胎盤ノ早期剝離	F 三九	前置胎盤	F 三三
腎臟動脈痙攣説	F 四三	ヒス氏腹壁	上二九	成熟胎兒	F 三九	戰慄陣痛	上二五三
心臓按摩法	F 四三	蒙古人斑	上二八	切迫流産	上七〇	前額位	上二五三
腎臟被膜切開法	上二八	モンゴメリ氏腺	上二九	絕對的狹窄骨盤	F 二九	前額結合	上二五三
腎臟洗滌	F 四六	モンブルク氏虛血法	下四〇	絕對的適應症	F 三〇	全足位	上二五三
シメルプシユ氏消毒器	上二八	問診	上二七	節食療法	F 三〇	前額頭門	上二五
眞脈絡膜	上二八	精蟲	上七	小兒粉	上四〇	前額陣痛	上二五
顛門	上二七	精蟲核	上三	小兒骨盤	上二五	前羊水	上二五
眞性保儲	下二五	正軸位	上三	小骨盤	上二五	尖圭、ころろゝむ	上二五
比較の適應症	F 三二	成形成黃	上〇	積極的酵素	上八	前不同高位	上二五
比較的狹窄骨盤	F 三〇	發育	上六	脊椎側彎性斜徑狹窄骨盤	F 二七	薦骨髌臼窩徑線	F 二七
「ヒヨレスデアリン」結晶	上二六	正規分娩	上四	脊椎後彎性橫徑狹窄骨盤	F 二七	旋光管	上二七
				脊椎適合	F 三〇	穿孔性頸管裂傷	F 三〇
						穿孔性子宮破裂	F 三六

全會陰破裂	F 四二
遲延性流産	F 一九
遲延性橫位	F 三三
遲延性喇叭管流産	F 一三
先天性膀胱嚢腫	F 六〇
先天性魚鱗癬	F 六七
前期破水	上二九
全膝位	上二五
全子宮内腫症	上二五
先進顛頂骨	上二四
先進體部	上四
全身熱性瘧疾	上四
旋進運動	上二四
全身性敗血症創傷傳染	F 五五
全前置胎盤	F 三六
水血症	F 三四
スカンツオニ一氏法	上三四
砂時計狀變縮	下二七
鬆粗性	上二〇
スケネ氏腺	上二二

大大大正
正正正正
六六四四
年年年年
四四八八
月月月月
十十五
五二五
日日日日
第第第第
二二一一
版版版版
發發發發
行行行行

新撰產科學下卷奧附

正價金四圓五拾錢

著者 磐瀨雄一

發行者 鈴木幹太

印刷者 野村宗十郎

印刷所 株式會社東京築地活版製造所



發行所

東京市本郷區龍岡町三十四番地
電話下谷四一七八番振替東京六三三八番

南山堂書店

NAMENREGISTER.

<i>A</i>				<i>C</i>
		<i>Berger</i>	II 412	
		<i>Bergmann</i>	II 619	
		<i>Beyer</i>	I 72	
<i>Abterhalden</i>	I 75	<i>Bidder</i>	II 444	<i>Calmette</i>
<i>Abrecht</i>	II 56	<i>Biedert</i>	I 385, 388, 437, 442	<i>Campbell</i>
<i>Ackermann</i>	II 174		II 28	<i>Carnat</i>
<i>Ahlfeld</i>	I 37, 102, 172, 182,	<i>Billard</i>	II 609	<i>Cattani</i>
	223, 224, 269, 276,	<i>Birch-Hirschfeld</i>	I 12, 407	<i>Caseaux</i>
	345, 346, 398	<i>Bischoff</i>	I 5, 13	<i>Chaletsky</i>
	II 10, 109, 189, 209,	<i>Blanc</i>	II 454	<i>Churchill</i>
	327, 368, 580	<i>Blat</i>	I 397	<i>Claudius</i>
<i>Aichel</i>	II 148	<i>H. Z. Boer</i>	I 125	<i>Cohn</i>
<i>Amann</i>	II 57	<i>Bohn</i>	II 608	<i>Cohnstein</i>
<i>Arendt</i>	II 426	<i>Bondi</i>	I 32	<i>Collins</i>
<i>Aschoff</i>	I 238, II 119	<i>v. Bordet</i>	II 542	<i>Conradi</i>
<i>Ascoli</i>	II 457	<i>Born</i>	I 7, 219	<i>Credé</i>
<i>Aurier</i>	II 426	<i>v. Both</i>	II 119	<i>Czerny</i>
<i>Award</i>	I 361	<i>Bouchacourt</i>	I 420	
		<i>Boudelocque</i>	I 160, 173	<i>D</i>
<i>B</i>		<i>Bouchar</i>	II 455	<i>Duenhoff</i>
<i>Baehetti</i>	II 136	<i>Brook</i>	II 454	<i>Dahlmann</i>
<i>Baels</i>	I 418	<i>Braun</i>	II 46	<i>Dalek</i>
<i>v. Baer</i>	I 5, 10	<i>Braunferwald</i>	II 123	<i>Delisle</i>
<i>Baginsky</i>	I 437	<i>Brazton-Hicks</i>	II 380	<i>Denek</i>
<i>Baisch</i>	II 608	<i>Brcisky</i>	I 160	<i>Denham</i>
<i>Bandl</i>	I 238, II 394	<i>Brcus</i>	II 181, 468	<i>D-nys</i>
<i>Bar</i>	II 88	<i>Bruno</i>	II 31	<i>Depaul</i>
<i>Basch</i>	I 392	<i>Buzin</i>	II 156, 209	<i>D'Espine</i>
<i>Bauer</i>	I 72	<i>Buhl</i>	II 608	<i>Dickinson</i>
<i>Baum</i>	I 223	<i>Bumm</i>	I 127, 278, 285, 305	<i>Dienst</i>
<i>Boumer</i>	I 406		II 36, 134, 170, 494	<i>Dirmoser</i>
<i>Beard</i>	I 219	<i>Burci</i>	II 136	<i>Dobbert</i>
<i>Beckmann</i>	II 434	<i>Burgraf</i>	I 68	<i>Dobbin</i>
<i>Berg</i>	II 586	<i>Busch</i>	I 253, 262	<i>Doederlein</i>
				<i>I 32, 123, 383</i>

Winter	II 39, 206		Zubrzycki	I 72
Winz	I 73	Z	Zweifel	I 215
Wolf	I 31			II 134, 456, 469
Würster	I 411	Zangmeister		
Wyder	II 46, 107	Zoopriiz		
			I 31, 63	
			II 459	

SACHREGISTER.

A

Abbaufement	I 81	" Überwanderung des Eies	II 63, 108
Abdominaler Kaiserschnitt	II 471	" " " Samens.....	II 63
Abnabelung	I 342	" Untersuchung.....	I 108
Abort im Gang	II 208	Äusserer Fruchtkapselbruch	II 123
Abortus.....	I 139, II 188	" Schrägdurchmesser	I 167
" imminens	II 198	Agalactie	II 571
Abortzange	II 212	Albumosenmilch	I 449
Absolut verengtes Becken	II 250	Allantois.....	I 18
Abstillung	I 436	Allantoiskreislauf	I 48
Abwehrferment	I 76	Allgemein gleichmässig verengtes Becken...II 255	
Acardiacus	I 133, II 327	" verengtes plattes Becken	II 261
Accessorische Bewegung.....	I 246	" zu weites Becken	II 310
Accommodationstheorie	I 46	Allgemeine Atonie des Uterus	II 420
Acephalus.....	II 327	" innere Uterusdruck	I 190
Acetosis	II 10	" " " -theorie	I 187
Acme (d. Wehen).....	I 186	" septische Wundinfektion	II 526
Acornus.....	II 328	" Krampfwehen	II 234
Acute Fettdegeneration	II 611	Allotonische Lösung	II 456
" gelbe Leberatrophie	II 46	Allseitig zusammengeknicktes Becken	II 265
" Haemoglobinurie	II 612	Alte Primipara	I 214
" Infektionskrankheiten	II 54	Amelus	II 328
" Pyaemie	II 536	Amme	I 438
" Vergiftung	II 473	Ammoniohaemie	II 450
Acutes Hydramnion	II 156	Amnion	I 16, 25
Aderlass	II 469	Amnionsvorfall	I 198
Adipositas.....	II 89	Amniotische Bänder	II 161
Adnexentumor.....	II 521	Amorphus.....	II 328
Äussere Beckenmessung	I 160	Anamnese.....	I 107, 305
" Blutung	II 360	Anaphylaxie.....	II 459
" Doppelhandgriff	II 426	Anencephalus	II 326
" Drehung des Kindeskopfes.....	I 244	Angeborener Nabelbruch	II 602
" Funduslinie	II 119	Anomalien des Amnions	II 156
		" der austreibenden Kräfte...II 219	
		" " Bauchpresse.....	II 239
		" " Brüste	II 103

Condylomata acuminata	II 61	" serocina	"
Conglutinatio orificii uteri	II 241	" vera	"
Conjugata anatomica	I 144	Deciduale Theorie	II 147
" diagonalis	I 176	Deciduazellen	I 22
" externa	I 163	Deciduoma malignum	II 152
" obstetrica	I 144	Deflexionshaltung	I 119
" vera	I 144	Deflexionslage	I 255, 270
Copernicus'sches Verfahren	II 18	Demarkationslinie	I 404
Corona radiata	I 10	Dermatomyositis	II 531
Corpus albicans	I 5	Descensus uteri	II 558
" granulosum	I 385	Desinfection der Hände	I 314
" luteum	I 5	" Instrumenten	I 318
" spurium	"	" Kreissenden	I 317
" verum	"	" Verbandmaterial	I 319
Coxalgisches Becken	II 275	Destruierende Blasenmole	II 140
Conveuse	I 429	Deutoplasma	I 10
Craniopagus	II 320	Devatio uteri puerperalis	II 557
" parasiticus	II 320	Diabetes mellitus	II 53
Credé'sche Einträufelung	I 357	Dialysiermethode	I 78
" Handgriff	I 346	Diameter Bondelocquii	I 163
Cretismus	II 256	" obliqua	I 144
Cystitis	II 566	" obliquus externus	I 166
Cystoma ovarii	I 88 II 246	Diaphragma pelvis	I 159
D			
Dammplastik	II 418	Dicephalus	II 319
Dammriss	I 330, II 412	Diphtheria puerperalis	II 553
" III Grades,	II 414	Diprosopus	II 317
" I Grades,	"	Dipygus	II 317
" II Grades,	"	" parasiticus	II 320
Dammschutz	I 330	Dislocation des Uterus	II 426
Darmgeräusch	I 178	Distantia cristarum	I 163
Dauer der Geburt	I 213	" sacrocotyloidea	I 145
Decidua	I 21	" spinarum	I 161
" basalis	22	" transversa	I 144
" capsularis	"	" trochanterica	I 167
" reflexa	"	Doederlein'sche Sondenröhrchen	II 512
		Dohrn u. Ahlfeld'scher Handgriff	II 348
		Dolichocephalus	I 260
		Dolores ad partum	I 182

" secundinas	I 182	" reflectorica	II 453
" consequassantes	I 191	" toxica	"
" postpartum	I 182, 374	Eczema	II 5
" parturientum	I 182	Eibläse	I 194
" praeparantes	"	Eidotter	I 10
" praesagiantes	"	Eihäute	I 21
Doppelmissbildung	I 130, II 317	Eihautretention	II 560
Doppeltes Promontorium	II 258	Eihautstich	II 162
Doppelwehen	I 187	Eihautvorfall	II 356
Dottergang	I 16	Eikern	I 11, 14
Dotterkreislauf	I 48	Einbettung des befruchteten Eies	I 19
Dottermembran	I 13	Einfigige Zwillinge	I 126
Dottersack	I 16	Einfache Geburt	I 140
Drangwehen	I 190	" katarrhalischer Ikterus	II 47
Drohender Abort	II 198	" plattes Becken	II 257
Drilling	I 124	" Steisslage	I 287
Dritte Drehung des Kindeskopfes	I 243	Einfacher Dammriss	II 414
Dritter Placentarkreislauf	I 181	Eingebildete Schwangerschaft	I 70, 89
Dritte Schädelage	I 254	Einkeilung des Kopfes	II 296
Druckmark	II 299	Einschneiden	I 202
Druckspur	II 299	Einsenkungstheorie	I 19
Ductus arteriosus Botalli	I 50, 218	Eintagsfieber	II 503
" venosus Arantii	I 49 218	Eintrittsmechanismus	I 243
Duplicitas apallera	II 318	Einzeitiger Abort	II 189
" inferior	II 318	Eiterkokken	II 58
" parallela	II 319	Eklampsie	II 443, 473
" superior	II 318	Eklampsiebacillus	II 454
Durchmesser	I 39	Eklampsie ohne Albuminurie	II 448
Durchschneiden	I 204	" " Krämpfe	"
Durchtrittschlauch	I 232	Embolie der Lungenarterien	II 473, 581
Dyspepsia neonatorum	II 613	Embryo	I 16
E			
Echte Zwerg	II 256	Empfängnisshügel	I 13
Eclampsia gravidarum	II 51, 444	Endocarditis ulcerosa puerperalis	II 539
" parturientium	II 444	Endochorion	I 23
" puerperalis	II 444	Endometritis atrophicans	II 173
		Endometritis decidua	II 86, 203
		" " diffusa	II 86
		" " polyposa	II 86

" " tuberosa	"	Evolutio spontanea	II 338
" gravidarum	"	Exhaustis uteri	II 222
" necrotica	II 511	Exochorion	I 23
" placentaris gummosa	II 177	Exomphalus	II 602
" postabortum	II 203	Expresio foetu	II 231
Enges Becken	II 249	Extraktion der Schultern	I 336
Entoderm	I 16	Extramediane Einstellung des Kopfes	II 293
Entwohnen	I 436	Extrauterine Gravidität	II 77
Entziehungskur	II 309	Extrauterine Schwangerschaft	II 104
Entzündungen des Beckenbindegewebes	II 514		
Enzym	I 391	F	
Epidermisabschupfung	I 404	Facialislähmung	II 607
Epignathus	II 322	Falscher Knoten	II 168
Epilepsie	II 49	Falsches Promontorium	II 259
Episiotomie	I 335	" Wasser	I 198
Epoophorale Einsertion	II 120	Fäulnisfieber	II 502
Ermüdungswelenschwäche	II 222	Fäulniskeime	II 501
Ernährung des Foetus	I 52	Febris recurrens	II 56
Ernährungstheorie	I 42	Fehlgeburt	I 140, II 188
Eröffnungsperiode	I 194	Fibrinferment	II 459
Eröffnungswehen	I 182	Fibrinpolyp	II 201
Er schwerte Geburt	I 141	Fistura urinae	II 565
Erste Drehung des Kindeskopfes	I 243	" vesicovaginalis	II 565
" Gesichtslage	I 280	Fleischmole	II 87, 181
" Hinterhauptslage	I 258	Flexionshaltung	I 119
" Schädellage	I 253	Flexionslage	I 255
" Steisslage	I 298	Fliegendes Oedem	II 3
" Stellung	I 253	Foetus	I 32
Erstes Wasser	I 194	" compressus	I 133, II 186
Erstickung	II 473	" papyraceus	I 133, II 186
Erwartete Termin	I 93	" sanguinolentus	II 182
Erworbener Nabelbruch	II 603	Fontanelle]	I 37
Erysipelas	II 56	Frerichs'sche Theorie	II 450
" neonatorum	II 596	Frontooccipitaler Durchmesser	I 39
" puerperalis	II 549	Fruchtanhänge	I 21
Erysipelaskokken	II 549	Fruchtblase	I 181, 194
Euphorie	II 532	Fruchtovoid	I 47
Eutokie	I 141		

Fruchtwasser	I 18, 30	Geradlage	I 253
Fruchtwirbelsäulentheorie	I 187	Geradverengtes Trichterbecken	II 272
Frühaufstehen (d. Wöchnerin)	I 420	Geschlechtsreif	I 2
Frühgeburt	I 140	Geschlechtszellen	I 7
Frühzeitige Athembewegung	I 304	Geschwülste der Scheide	II 247
" Blasenprung	I 199, II 354	" " Vula	"
Führungslinie	I 150	Gesichtsgeschwulst	I 207, 280
Fünfling	I 124	Gesichtslage	I 253, 270
Fungus umbilici	II 594	Gesichtsinie	I 278
Funiculus umbilicalis	I 18, 29	Gingivitis (d. Schwangere)	II 20
Furchungskern	I 14	Gonorrhoe der Schwangere	II 37
Furchungskugel	I 15	Gonorrhoeische Entzündung	II 60
Fusslage	I 254	Graaf'sche Follikel	I 4
		Granulationswall	II 503
G		Granulom des Nabels	II 594
Galactorrhoe	II 572	Gravida	II 1
Galactostase	II 573	Graviditas abdominalis	II 122
Ganglion cervicale	I 184	" ampullaris	II 115
" genitale sup. et. inf.	"	" extrauterina	II 104
" renale sup. et. inf.	"	" intraligamentosa	II 117
" solare	I 184	" isthmica	"
Gangraena umbilici	II 591	" ovarialis	II 120
Gärtner's Fettmilch	I 449	" praecox	II 140
Gassengeburt	II 232	" tubae ampullaris	II 115
Geburt	I 139	" " isthmica	II 117
Geburtsbett	I 320	" tubaria	II 114
Geburtsgeschwulst	I 227	" " interstitialis	II 117
Geburtskanal	I 141	" " tubouterina	"
Geburtslagerung	I 321	Gravidität	I 1
Geburtsmechanismus	I 230	Gravitationstheorie	I 46
Geburtschmerz	I 192	Grosse Fontanelle	I 38
Geburtszimmer	I 320	Grosser Kindesteil	I 111
Gedoppelte Steisslage	I 287	Grosser Querdurchmesser des Kindeskopfes	I 39
Gemeingefühl	I 417	Grosses Becken	I 142
Gemischte Steisslage	I 254, 287	Gummibecken	I 270
Genitalblutung im Wochenbett	II 560	Gummihandschue	I 317
Gerader Durchmesser des Kindeskopfes	I 39	Gutartige Venenthrombose	II 568

H	
Habituelle Frühgeburt	II 192
" Schwangerschaftsunterbrechung	II 192
Habituelle Abortus	II 192
" Neigung zu atonischen Blutungen	II 421
Habitus	I 43, 252
Haematocele peritubaria	II 126
" retrouterina	II 77, 127
Haematogener Ikterus	I 406
Haematom des Sternocleidomastoideus	II 606
Haematoma polyposum uteri	II 563
" uteri	562
" subchoriale tuberosum	II 181
" vaginae	II 410, 562
" vulvae	" "
Haematometra	I 88
Haematosalpinx	II 126
Haemolytische Streptokokken	II 507
Haemophilie	II 53
Haftzotten	I 27
Halbertsma'sche Theorie	II 453
Haltung des Foetus	I 43
Haltungsdrehung	I 243
Haltungsveränderung	I 250
Hängebauch	I 422, II 67 282
Harnfistel	II 565
Harnsäureinfarkt	I 408
Harnverhaltung	I 400, II 565
Hautkrankheit	II 4
Hebamme	I 313
Hegar'sches Zeichen	
I Hegar'sches Zeichen	I 59
II " "	I "
Heisse Scheidenspülung	II 427
Hemicephalus	II 326
Hepatogener Ikterus	I 407
Hernia	II 247
" umbilicalis	II 602
" uteri gravidi	II 84
Herpes	II 5
Herzklappenfehler	II 42
Hexenmilch	I 405, II 600
Hinterdarm	I 18
Hintere Asynklitismus	I 239
" Scheitelbeineinstellung	"
" Seitenfontanelle	I 38
Hinterhauptsfontanelle	"
Hinterhauptslage	I 253, 257
Hirnerschütterung	II 473
Hodge'sches Beckensystem	I 148
Hohes Assimilationsbecken	II 256
Hohlmuskel	I 232
Hohlwarze	I 110
Hornplacenta	II 385
Hourglasscontraction	II 237, 386
Hüftbreite	I 40
Hydraemie	II 3, 451
Hydramnion	II 156
Hydrocephalus	II 313
" externus	"
" internus	"
Hydrorrhoea uteri gravidarum	II 88
" " gravidamialis	"
Hyperemesis	I 64
" gravidarum	II 6
Hyperinvolution	II 564
Hypnotismus	I 361
Hysterie	II 49
I	

Ichthyosis congenita	II 617	Intraligamentäres Haematom	II 127, 396
Icterus gravis	II 608	Intrauterine Spülung	II 427, 505
" neonatorum	I 405, II 607	Inversionstrichter	II 433
Idiopathische Nabelblutung	II 601	Inversio uteri	I 350, II 433
" Psychose	II 583	" " completa	II 433
Imprägnationstheorie	II 41	" " incompleta	"
Impressio uteri	II 433	" vaginae	II 60, 558
Impression des Kopfes	II 300	Ischiopagus	II 319
Impetigo herpetiformis gravidarum	II 5	Ischiuria paradoxa	II 72
Incarceratio placenta	II 236		
Inclinatio pelvis	I 170	J	
Incontinentia urinae	I 401, II 565	Jungblut'sche Gefäße	II 31, 158
Incusio foetalis	II 323	Junge Primipara	I 214
Inertia uteri	II 220		
Infantiles Becken	II 255	K	
Infektionspsychose	II 583	Kaiserschnittsbecken	II 250
Influenza	II 57	Kalkablagerung der Placenta	II 178
Innere Beckenmessung	I 174	Karyokinese	I 15
" Blutung	II 127, 359	Keimbüschchen	I 10
" Fruchtkapselbruch	II 123	Keimblase	I 15
" Funduslinie	II 119	Keimfleck	I 10
" Sekretion der Ovarien	I 7	Kindbettfieber	II 489, 492
" Überwanderung des Eies	II 109	Kinderfleck	I 417
" Untersuchung	I 190, 309	Kindesbewegung	I 69, 121
Innere Uterusdruck	I 190	Kindesherztöne	I 69, 118
Insertio centralis	I 30	Kindesmehl	I 450
" lateralis	"	Kind „mit Grückschaube“	199, II 357
" marginalis	"	Kindspech	I 409
" velamentosa	I 30, II 166	Kleine Fontanelle	I 38
Insufflation	II 487	Kleiner Kindesteil	I 111
Insuffizienz der Bauchpresse	II 269	Kleiner querer Durchmesser des Kindeskopfes	I 39, 40
Intercurrente Eklampsie	II 448	Kleines Becken	I 143
Interlobuläre Pneumonie	II 530	Knielage	I 254
Intertrigo	II 4, 589	Knochenverschiebung	I 226
Intervillöser Raum	I 26	Knöcherner Geburtskanal	I 141
Intoxikationspsychose	II 583		
Intrafoetation	II 323		
Intrafollikuläre Eiinsertion	II 120		

Kochsalzinfusion.....	II 469	Laktationspsychose.....	II 584
Kombinierte Untersuchung	I 123	Lambdanaht	I 38
" Uteruscompression	II 425	Landois'sche Theorie.....	II 451
" Uterusmassage	II 424	Landry'sche Paralyse	II 571
" Wendung.....	II 477	Langhans'sche Zellschicht.....	I 24
Kompleter Dammriss.....	II 414	Laquearriß	II 408
Kompression der Aorta	II 430	Lassitudo uteri	II 222
Konfiguration der Kindeskopfes	I 226	Leichengeburt	II 472
Kontaktinfektion	II 499	Leucaemie.....	II 53
Kontraktionsring	I 242	Lever'sche Theorie.....	II 450
Kopfblutgeschwulst	I 207, II 604	Lig. spinosacra	I 157
Kopfgeschwulst.....	I 207	" tuberosacra	"
Kopflage	I 45, 253	Linea alba	I 110
Koprostase im Wochenbett	II 567	Lipoid-Umwandlung des Foetus	II 183
Kothmasse	II 248	Liquor amni.....	I 18, 30
Kotyledo	I 27	Lithokelyphopaedion.....	II 123
Krampfartige Wehenschwäche	II 221	Lithokelyphos	"
Krampfwehen	II 234	Lithopaedion	"
Kraniopagus	II 319	Litzmann'sche Obliquität	I 240
Krankheiten der Brüste	II 571	Livide Färbung	I 68
Kranznaht	I 38	Lochia alba	I 384
Kreislauf des Foetus	I 47	" cruenta.....	I 383
Kreissende	I 193	" lactea	I 384
Künstliche Athmung.....	II 482	" rubra	I 383
" Blasensprengung	II 376	" sanguinolenta	I 384
" Ernährung	I 430	" serosa.....	"
" Frühgeburt	II 309	Lochialssekret.....	I 383
" Geburt	I 141	Lochien	"
" Vermehrung der Leucocyten.....	II 543	Lochiometra.....	II 504
Kyphotisch querverengtes Becken.....	II 270	Loeffler'sche Serumplatte	II 73
L			
Längslage	I 44, 253	Lofflund's peptonisierte Milch	I 49
Längsachse des Foetus	I 43	Lokale Atonie des Uterus	II 422
Lage des Foetus	I 45	Lufteinblasung.....	II 487
Laktation	I 384	Luftembolie	I 334, II 473
Laktationstrophie des Uterus	II 564	Luteinzellen	I 5
M			
Maceration	II 182		

Maceration des Foetus	II 182	Milzbrand.....	II 58
Macula germinativa.....	I 10	Mischinfektion	II 497
Malaria	II 56	Missed abortion.....	II 187, 199
Mammäre Theorie.....	II 460	" labour	II 95, 187
Männlich starkes Becken.....	II 255	Mola hydatidosa.....	II 140
Manuelle Ablösung der Placenta	II 390	Momburg'sche Blutleere	II 430
" uterovaginale Temponade	II 429	Mongolenflecken	I 418
Masern	II 54	Monilia albicans et candida	II 61
Massage der Uteruswand	II 424	Monstora duplicia	II 317
" des Herzen	II 486	Montgomery'sche Drüsen	I 62, 103
Mastitis.....	II 575	Morbus Basedowii.....	II 52
" interstitialis purulenta.....	II 577	" Buhli	II 611
" neonatorum	II 600	" Winckeli	II 612
" parenchymatosa purulenta.....	II 577	Morulastadium	I 15
Meconium	I 409	Müller'scher Ring	I 238
Meconiumabgang	II 480	Mumifikation des Foetus.....	II 185
Meconiumkörperchen	I 409	Mutterkuchen	I 25
Mehrfache Geburt	I 141	Myoma uteri	I 88, II 90, 245
" Schwangerschaft	I 124	Myxom der Chorionzotten	II 140
Melaena neonatorum.....	II 608	Myxoma fibrosum (placentae).....	II 178
" spuria	II 575	Myxosarcoma Teleangiectodes	II 171
Menarche	I 3	N	
Menopause.....	"	Nabelbläschen	I 16
Menstruation.....	I 2	Nabelblutung	II 601
Menstruatio praecox	"	Nabelbruch	II 602
Mentooccipitaler Durchmesser	I 39	Nabelgrube.....	I 404
Mesoderm	I 16	Nabelschnur	I 29
Metreuryse	II 380	Nabelschnurabfall.....	I 404
Metritis chronica.....	I 88	Nabelschnurbinde	I 325, 344
" dissecans	II 511	Nabelschnurgeräusch	I 69, 121, 309
" gravidarum.....	II 89	Nabelschnurrepositorium	II 351
Metroendometritis septica puerperalis	II 510	Nabelschnurscheere	I 325, 344
Metrophlebitis.....	II 511	Nabelschnurumschlingung	II 170
Michaelis'sche Raute	I 165	Nabelspinallinie	I 258
Milchfieber	I 395	Nachgeburt	I 27
Milchkörner	I 409	Nachgeburtshlutung	II 383
Milchkügelchen	I 387		
Milchkur	II 464		

Nachgeburtsperiode	I 207	Osteochondritis syphilitica	II 26
Nachgeburtswehen	I 182	Osteomalacisches Becken	II 265
Nachwasser	I 205	Ovarialgeschwulst	II 77, 100
Nachwehen	I 182, 374	Ovarialschwangerschaft	II 120
Naegelsches Becken	II 276	Ovuläre Theorie	II 148
Naegelsche Obliquität	I 225, 239	Ovulation	II 4
Nahrungsdotter	I 10	Ovulum	I 10
Narkose unter der Geburt	I 359	Oxydase	I 391
Natürliche Ernährung des Neugeborenen ..	I 430		
" Geburt	I 141	P	
Nebenplacenta	II 173	Papillom	II 62
Neugeborene	I 139, II 585	Paracolpitis	II 514
Neuralgie und Parese der Wöchnerin	II 570	Paracystitis	II 515
Neuritis gravidarum	II 51	Paragomphosis	II 296
" puerperalis	II 571	Parallelenensystem des Beckens	I 148
Neurose der Schwangere	II 48	Parametritische Exsudat	II 78
Nicholson'sche Theorie	II 460	Paramastitis	II 577
Nicht perforierende Cervixriss	II 403	Parametritis	II 514
Nierendekapsulation	II 470	" circumscripita	II 515
Nierendurchspülung	II 464	" diffusa	II 514
Nierenkrankheiten der Schwangere	II 37	Paraproctitis	II 514
Nodi gelatinosi	II 169	Prasitäre Doppelmissbildung	II 320
" varicosi	"	Paralyse der Placentarstelle	II 422
Normale Geburt	I 141	Partiell verengtes Becken	II 256
		" zu weites Becken	II 310
O		Partielle Krampfwehen	II 294
Oberflächlicher Dammriss	II 414	" Molenbildung der Placenta	II 144
Oedem	II 2	Partus abortivus	I 139, II 188
Oligohydramnie	II 163	" capite gelato	II 357
Olshausen'scher Handgriff	I 334	" immaturus	I 140, II 188
Omphalitis	II 593	" maturus	I 140
Omphalocoele	II 602	" praecipitatus	II 232
Omphalopagus parasiticus	II 321	" praematurus	I 140, II 188
Omphaloproptosis	II 350	" serotinus	I 140, II 213
Omphalorrhagia	II 601	Pasteurisation d. Milch	I 445
Omphalotripsie	I 345	Pelveoperitonitis	II 520
Optische Methode	I 77	Pelvis minis parva et plana	II 261

" nana	II 256	" dimidiata	II 174
" obtecta	II 263	" incaerata	II 336
" plana	II 256	" marginata	II 176, 385
" spinosa	II 278	" membranacea	II 172, 385
Pemphigus acutus	II 617	" multiloba	II 173, 385
" cachecticus	II 618	" praevia	II 363
" chronicus	"	" " centralis	II 364
" neonatorum	II 617	" " cervicalis	II 369
" simplex	"	" " lateralis	II 364
" syphiliticus	II 27, 618	" " marginalis	II 365
Perforation	II 301	" " partialis	II 364
Perforierende Cervixriss	II 403	" " spuria	II 368
Perimetritis	II 520	" " totalis	II 364
" abhaesiva	II 521	" succenturiata	II 173, 385
" gravidarum	II 89	" tripartita	II 174
Peripharia frontooccipitale	I 40	Placentarablösung nach Duncan'schen Modus	I 211, 212
" mentooccipitale	I 40, 283	" " Schultze'schen Modus	I 209, 211
" suboccipito bregmatica	I 40, 262	Placentare Infection	II 22
Periphere Lähmungen	II 607	Placentarcyste	II 178
Peritonitis adhaesiva	II 521	Placentargeschwülste	II 178
" universalis puerperalis	II 527	Placentarkreislauf	I 48
Perityphilitis (d. Schwangere)	II 58	Placentarlappen	I 27
Perivitelliner Spaltraum	I 10	Placentarpolyp	II 201, 556
Perniciöses Erbrechen	II 6	Placentarsyphilis	II 177
Peroneuslähmung	II 607	Placentartuberculose	II 178
Peroxydase	I 391	Placentin-reaktion	I 73
Pest	II 57	Placentitis	II 174
Pfeilnaht	I 38	Pleuritis	II 57
Phlebitis	II 3	Plusferment	I 81
" umbilicalis	II 593	Plexus aorticus thoracalis	I 183
Phlegmasia alba dolens	II 523	" hypogastrici	I 184
Phthisis pulmonum	II 45	" uterinus magnus	"
Physometra	II 297	Pneumonie	II 57
Piskacek'sches Zeichen	I 56	Polarimeter	I 77
Pityriasis versicolor	II 4	Polarisationsrohr	I 77
Placenta	I 25	Polstergefühl	II 373
" bipartita	II 174		
" circumvallata	II 177		

Schwangerschaftskakke	II 44	Soxhlet'sche Apparat	I 446
Schwangerschaftsmonate.....	I 32	" Nährzucker	I 444
Schwangerschaftsnarbe	I 65	Spaltbecken	II 264
Schwangerschaftsnephritis	II 38	Spastische Striktur des Uterus	II 234
Schwangerschaftsniere	"	Spätblutung	II 555
Schwangerschaftstreifen	I 65	S; ätgeburt	I 140, II 213
Schwangerschaftswehen	I 182	Speichelfluss	II 19
Schwangerschaftszeichen	I 67	Spermakern	I 13
Sclerema neonatorum	II 616	Spermatozoen	I 7
Scleroedema neonatorum.....	"	Sphinkterkrampf des Uterus	II 234
Sechsling	I 125	Spiegelberg'sche Theorie	II 453
Secundäre Atrophie des Uterus.....	II 564	Spitzbanch.....	II 67, 282
" Bauchhöhlenschwangerschaft	II 122	Spondylolisthetisches Becken	II 262
" Fruchttod	II 181	Spongiosa deciduae	I 22
" Wehenschwäche.....	II 221	Spontane Uterusruptur	II 391
Secundinae	I 27	Stachelbecken	II 278
Seifenspiritus	I 316	Stadium decrementi.....	I 186
Seitenschnitt.....	I 335	" incrementi.....	"
Selbstentwicklung	II 338	" suprationis	II 54
Selbstinfektion	II 493	Stalagmomena	I 72
Selbstwendung	II 337	Starke Blutung	II 198
Septicaemia	II 474	" Füllung der Blase	II 248
Septicaemia puerperalis	II 530	Stechbecken	I 324
Septico-pyæmie.....	"	Steinkind	II 128
Septischer Abort.....	II 201	Steinsarg	"
Septische Infektion der Neugeborenen.....	II 591	Steissfleck	I 417
" Wundinfektion.....	II 508	Steisslage	I 254, 298
Sicheres Schwangerschaftszeichen	I 68	Stellung.....	I 46, 253
Silberbehandlung nach Crédé.....	II 543	Stellungsdrehung.....	I 243, 250
Silvester'sche Methode.....	II 486	Stellwehen	II 289
Simon-Ruge'sches Zeichen	II 118	Stenose der Scheide	II 243
Simonart'sches Bänder	II 164	" des Scheideneinganges	II 243
Situs	I 45, 252	Sterilisation	I 445
Skenne'sche Drüsen	I 425	Sternopagus	II 319
Skoliotisch schrägverengtes Becken	II 274	Stirnfontanelle	I 38
Somatose-muttermilch	I 449	Stirnlage	I 253, 284
Soor	II 586	Stirnnaht	I 38
Soorpilz.....	"	Stomatitis aphthosa	II 589

Straffe Tamponade.....	II 375
Strassengeburt	I 192, II 232
Streptococcus brevis	II 507
" erysipelatos	"
" longus	"
" pyogenes.....	"
" septicus	II 508
Striae gravidarum	I 56
Stroganoff'sche Theorie	II 454
" Verfahren	II 466
Struma (d. Schwangere)	II 52
" neonatorum	II 619
Stumpfsche Theorie	II 450
Sturzgeburt.....	I 192, II 232
Subinvolutio uteri	II 202, 561
" " puerperalis	II 554
Suboccipitobregmatischer Durchmesser	I 40
Subperitoneales Hämatom.....	II 396
Suggestion	I 361, II 18
Superfoetatio	I 129
Superfoecundatio	I 128
Suprasymphysärer Kaiserschnitt	II 471
Sutura coronalis	I 38
" frontalis	"
" lambdoidea	"
" sagittalis	"
Syncysiumzellen	II 457
Syncytialzellen.....	II 457
Syncytium	I 24
Syncytioma malignum	II 152
Syncytiotoxin	II 457
Syncytiolysin	II 9, 457
Synklitische Einstellung.....	I 239
Synkoptische Athmung.....	II 440
Syphilis.....	II 25
" haemorrhagica	II 27
" papulosa	"

T

Tabes lactea.....	II 572
Tetanie	II 50
Tetanus	II 57
" neonatorum	II 598
" puerperalis	II 550
" uteri	II 235
Thoracomelos	II 321
Thoracopagus	II 319
" inäqualis	II 321
" parasiticus	"
Thrombophlebitis septica	II 523
Tiefer Dammriss.....	II 414
" Querstand des Kindeskopfes.....	I 268
" Sitz des Mutterkuchens	II 365
Tocodynamometer	I 188
Torsio nimia	II 167
Totaler Dammriss	II 414
Trägheit der Gebärmutter	II 220
Traube-Rosenstein'sche Theorie.....	II 451
Traubenmole	II 140
Traumatischer Erysipelas.....	II 597
Treibwehen	I 191
Trichterbecken.....	II 272
Trichterförmiges zu weites Becken	II 311
Trismus neonatorum	II 598
Trousseau'sches Armphaenomen	II 51
Trypsinmilch.....	I 449
Tubenabort	II 123
Tubeneckenplacenta	II 385
Tubenruptur	II 123
Tubenschwangerschaft	II 114
Tubenwehen.....	II 129
Turbinalbewegung	I 243
Turmschädel	I 267
Typhus abdominalis	II 55

Tympania uteriII 297, 504

U

Überdrehung des KindeskopfesI 269
 " " Kindesrückens..... " "
 " " RumpfesI 299
 Überfruchtung.....I 129
 ÜbergangsbeckenII 250
 Überreifes Kind.....II 213, 311
 ÜberschwängerungI 128
 Ulcus puerperalisII 509
 UlnarislähmungII 607
 Umfang des Kindeskopfes.....I 38
 UmwallungstheorieI 19
 Ungleichmässig verengtes BeckenII 278
 Untere UterinsegmentI 232
 Unvollkommene AbortII 200
 " FusslageI 254, 287
 " Knielage..... " "
 Unvollständige DoppelmissbildungII 317
 Unsicheres SchwangerschaftszeichenI 67
 UrsamenzellenI 8
 UrticariaII 5
 " interna " "
 Uteringeräusch.....I 117, 309
 Uteroplacentargefässe.....II 357
 Uterovaginale TamponadeII 428
 UteruslochienI 383
 Uterus duplex.....II 65
 " septus " "
 " unicornisII 62
 " " cum cornu accessori us..... " "
 UterusmyomII 77
 UterusrupturII 297, 391
 UterusverletzungenII 391
 UteruswundeII 560

V

VaccintherapieII 543
 Vagina duplexII 59
 " septa " "
 " subsepta " "
 Vaginaler KaiserschnittII 471
 Vaginitis aphthosa.....II 61
 " mycotica..... " "
 Vagitus uterinus.....II 480
 VakuolenbildungII 145
 Valvula EustachiiI 49
 VaricesII 3
 VariolaII 54
 VerblutungII 472
 Verfrühte MitpresseII 229
 Verhaltene Fehlgeburt.....II 187, 199
 Verletzungen des BeckengelenkeII 297, 419
 " weichen Geburtskanal.....II 391
 Vernix caseosaI 35
 Verschleppte QuerlageII 336
 Verstrichen des Muttermundes.....I 198
 Verzögerte BlasensprungII 356
 Vesicula germinativaI 10
 Vierte Drehung des KindeskopfesI 244
 " SchädellageI 254
 Violente UterusrupturII 391
 VierlingI 124
 VitellusI 10
 Vollkommene KnielageI 287
 " FusslageI 255
 Vollständige Erweiterung des Muttermundes.I 198
 Voltmer's künstliche MuttermilchI 449
 Vomitus maturinusII 6
 VorbereitungswehenI 182, 199
 Vordere AsynklitismusI 239
 " ScheitelbeineinstellungI 239

" SeitenfontanelleI 38
 VorderhauptslageI 153, 262
 Vordesinfektion.....I 313
 VorderscheitellageI 253
 Vorfall des Nabelschnurs.....II 348
 Vorläufer der Geburt.....I 193
 Vorliegen des NabelschnursII 348
 Vorliegendes ScheidenbeinI 243
 Vorliegender KindesteilI 45, 111
 VormilchI 385
 VorwasserI 194
 Vorwatte.....I 426
 VorwehenI 182
 Vorzeitiges Ablösung der PlacentaII 357
 " AthmenII 475
 Vorzeitige BlasensprungI 199, II 354
 Vulvitis puerperalisII 508

W

WärmekastenI 429
 Wahre Knoten des NabelschnursII 169
 " Nephritis.....II 42
 Wahrscheinliches Schwangerschafts-
 zeichenI 68
 Wharton'sche SulzeI 29
 Walcher'sche HängelageI 152, II 296
 WasserhautI 25
 WasserkopfII 313
 Wechselndes OedemII 3
 WehenI 182
 WehenanfallI 187
 WehenanomalienII 219
 WehenpauseI 187
 WehenschmerzI 192
 WehenschwächeII 219
 Weicher GeburtskanalI 178
 Weisser InfarktII 40, 174

WiederbelebungsversuchII 481
 Winckel'sche TheorieII 452
 WochenbettI 369
 WochenbettlähmungII 571
 WochenflussI 382
 WundfieberII 492
 Wundinfektion.....II 298, 494, 497
 Wundintoxikation.....II 494, 497

X

XyphopagusII 319

Z

ZahnclmerzII 20
 Zentraler DammrissII 414
 Zona pellucidaI 10
 " radiata..... " "
 ZottenI 18
 ZottendeportationII 125
 ZottenhautI 22
 Zuklemmen der ParametrienII 432
 Zu starke BauchpresseII 561
 " " MittpresseII 240
 " " WehenII 231
 " weites BeckenII 310
 Zwei-eiige ZwillingeI 126
 Zweifel'sche TheorieII 451
 Zweite Drehung des KindeskopfesI 243
 Zweite Gesichtslage.....I 281
 " HinterhauptslageI 253
 " SchädellageI 253
 " SteisslageI 298
 Zweites Wasser.....I 205
 Zweizeitiger AbortII 189
 ZwillingI 124
 ZwillingsschwangerschaftI 126

[20]

Zwergbecken.....II 256 |

56
104

終